ニ在リテハ最初ニ内容ヲ除去スルヲ以テ剝皮ノ際ニ主要ノ部分ヲ剖檢シ置サレハ他日之ヲ視ルコト能ハス併シ永ク之ヲ保存スルニ手數ヲ要セサルト毛色ヲ容易ニ鑑別シ得ラル、利アリ其形狀ハ塡充物ノ多少ニ因リ變態スルヲ以テ模範トナシ難シ故ニ其主要ノ部分ヲ測定シ置ケハ多少變形ヲナスモ支障ナキナリ因テ本調査ニ要スル標本ハ專ラ剝製トナスコト、シ吉川壽年四郎ヲシテ剝製標本ノ製造ニ從事セシム

新鮮ノ鼠ヲ直ニ剝皮スル場合ニハ胸部ノ中央ヲ縱ニ皮膚ノミヲ切開シテ腹膜等ヲ破ラサル樣ニ剝皮スルヲ以テ血漿等ノ流出スル尠キモ「ペスト」菌檢査後ノ標本ハ下腹部ヲ横ニ切開シアルヲ以テ血漿等ノ汚液毛皮ヲ汚染スル爲ニ清水ヲ以テ之ヲ洗滌シ石膏ヲ用ヒテ之ヲ乾シ後チ製造セサルヘカラス若シ汚液等ノ毛ニ附着セルヲ其儘剝皮シテ調製スル時ハ標本ニ惡臭ヲ帶ヒテ保存シ難シ皮裡ニハ亞砒酸ノ濃厚水溶液ヲ筆ニテ塗抹シ麻屑或ハ綿ヲ塡充シテ生時ノ姿勢ニ模造ス尾ニハ尾骨ノ代リニ鐵線ヲ用ユ之ヲ乾燥スルニハ前肢ヲ前ヘニ後肢ヲ後ニ向ケテ伏セシメ留針ヲ用ヒテ一週間程板ニ刺シ留メ置キ形ノ固定シタル後チ之ヲ函中ニ保存スルヲ可トス鼠ノ種類ヲ鑑別スルニ須要ナル標徵ハ軀幹四肢耳殼及尾ノ長サ等局部ノ測定、乳房ノ數、頭蓋及齒ノ形狀幷ニ大サニシテ之ニ要スル測定ノ重ナル部分ハ左ノ四項トス

一、頭及胴ノ長サ
二、尾ノ長サ
三、後趾ノ長サ
四、耳殼ノ長サ

鼻端ヨリ尾根マテ（腹面ヨリ測定スルトキハ肛門マテ）
尾ノ根部（肛門ノ中央）ヨリ尾ノ尖端マテ
後脚ノ跟部ヨリ趾端（或ハ爪端）マテ
耳殼ノ前面底所ヨリ尖端マテ

乳房ノ數ハ各種異同アルヲ以テ牝牡ヲ檢スル際若シ牝鼠ニシテ老成ナルモノハ腹面ニ乳房ヲ認メラル其數ハ十二個アリ十個アリ或ハ八個アリ其位置胸部ニ三對或ハ二對鼠蹊部ニ三對若クハ二對アリテ各種概シテ一定セリ頭骨ノ大サ形狀幷ニ臼齒ノ形狀ハ種ヲ確定スル上ニ必要ナルヲ以テ剝製ノ際頭骨ヲ頸椎ヨリ切リ離シ腦ヲ除去シ其他ノ筋肉ヲ截除シ標本ニ添附シ置クヲ要ス

鼠類ノ食物ヲ調査センタメ剝皮ノ際胃中ヲ剖檢シ胃中ニ殘留スル物質ヲ記載ス

鼠類ハ嚙齒類ノ一族ニシテ野外ニ栖息スル者ト人家ニ接ム者トアリ野鼠ニ在リテハ自ラ一地方ニ邊在シテ廣ク移動セサルヲ以テ本邦特有ノ種類モ尠カラス然ルニ家鼠ハ船車ノ便ニ乘シ移動スルヲ以テ交通頻繁ナル今日ニ於テハ其分布區域モ頗ル延長シ或種類ニ於テハ殆ント歐亞ニ繁殖スルニ至ル者アリ今東京市ニ於ケル鼠類ヲ調査スルニ方リ「ペスト」菌ノ存在ガ果シテ家鼠ノミニ限ラル、ナランニハ敢テ野鼠迄モ調査スル必要ヲ認メスト雖「ペスト」ト鼠族各種トノ關係ガ確定セサル以上ハ北海道ヨリ南ハ琉球臺灣等ニ至ル迄其所產ノ鼠類ト其分布トヲ明瞭ニスル事又豫防上ニ緊要ナルヘシ左ニ掲クル者ハ既ニ學術上ニ記載セラレタル鼠類ニシテ其數約二十六種アリ其形狀毛色等ヲ記述スヘシ

已知ノ種類

甲、本島四國九州及附近諸島所產ノ種類

一　七郎鼠 Mus decumanus, Pall.

此種ハ頭及胴ノ長サ尾ヨリ長ク耳殼小ニシテ前方ニ折リ返ヘシ眼ニ達セス後足割合ニ長大ナリ毛色ハ背腹色ヲ異ニシテ背部暗褐色ニ腹部ハ灰白色ヲ呈ス尾ノ下面モ亦灰白色ナリ乳房ハ十二個ニシテ胸部ニ三對鼠蹊部ニ三對アリ

體長（頭及胴）二一五ミメ、尾長一八〇ミメ、後足三六ミメ、耳殼一九ミメ

二　クマネヅミ Musr attus, linn.

此種ハ頭及胴ノ長サ尾ヨリ概シテ短ク耳殼大ニシテ前方ニ折リ返ヘストキハ眼ニ達ス毛色ハ背腹共ニ概シテ同色ナレトモ背部ハ藍黑色ヲ呈シ腹部ハ淡鼠色ナリ乳房十二個ニシテ三對ハ胸部ニ三對ハ鼠蹊部ニ在リ

體長（頭及胴）一五五ミメ、尾長二一五ミメ、後足三四ミメ、耳殼二四ミメ

三　エジプトネズミ Mus alexandrinus, Geoffroy.

本種ハ其形態「クマネズミ」ニ酷似シ前種ノ地方形種トナス人アリ尾ハ割合ニ長ク後足ハ割合ニ小ナリ毛色ハ背腹色ヲ異ニシ背部ハ褐色ヲ雜ヘ腹部ハ灰白色ニ淡紅色ヲ帶フ乳房十二個

體長(頭及胴)一六〇ミメ、尾長二〇〇ミメ、後足三三ミメ、耳殼二四ミメ

四　ハツカネズミ Mus musculus, linn.

此種ハ小形ニシテ背腹一樣ノ毛色ニシテ灰黑色ニ黃色ヲ帶フ腹部ハ稍鮮明ナリ脚及趾ハ灰色ニ黃色ヲ帶ヘリ耳殼ハ圓クシテ頭ノ長サノ半ニシテ前方ニ折リ返ストキハ眼ニ達ス全體ノ毛ハ短クシテ剛毛ナク尾ハ殆ント裸出シ通例頭及胴ヨリ長キモ時トシテハ同長或ハ少シク短キモアリ乳房十個ニシテ三對ハ胸部ニ二對ハ鼠蹊部ニアリ第三臼齒甚ダ小ニシテ第二ノ三分一ナリ

體長(頭及胴)七五ミメ、尾長八七ミメ、後足一三ミメ、耳殼一二ミメ

五　(和名未詳) Mus molossinus, Temm.

體ハ一樣ノ毛色ニテ喙短クシテ鈍ク毛色ハ赤灰白色背部ヨリ腹部ハ鮮明ナリ尾毛ハ甚タ短ク且稀疎ニシテ鳶色ナリ

體長(頭及胴)九二ミメ、尾長五五ミメ、後足一五ミメ

六　タネズミ(ハツカネズミ) Mus tanexumi. Temm.

此野鼠ハ蹊鼠ト「クマネズミ」トノ中間ノ大サニテ尾ハ頭及胴ノ長サヨリ長ク耳殼ハ長ク橢圓ニシテ裸出ス體毛ハ短クシテ且平滑ニ毛ハ其基部マテ染色セラレ背及頭ノ頂マテ鳶色ニ暗褐色ヲ帶ヒ側面ハ鳶色ニ灰白色ヲ交ヘ下部ハ鳶色ニ白ミヲ帶ヘリ

全長二〇〇ミメ、尾長一一二ミメ

此鼠ハ沼澤ノ附近又河川ノ沿岸或ハ稻田ニ栖息シ米穀ヲ食餌トナスヲ以テ田畔ニ甚タ多シト云フ故ニ「タネズミ」ノ稱アルナランカ

七　ノネズミ Mus argenteus. Temm.

體形ハ蹊鼠ニ似テ耳殼ハ大キクシテ裸ナリ尾ハ頭及胴ヨリ長クシテ毛ヲ生セス然レトモ其尖端ニハ微毛アリ體ノ上部全體側面ノ中央ヨリ頸部マテ鳶色ニ赤色ヲ帶ヒ頭部ハ茶色ニテ髭毛ノ長キハ灰白色ニ鳶色ヲ混ス下面ハ全體ニ白ミヲ帶ヒ四肢ハ純白ヲ呈ス

全長一九五ミメ、尾長八〇ミメ

オルフイールトゾマス氏ハテンミシク氏ノ命名セル本種ハ Fauna japonica ニ記載セラレタルモ M. speciosus ノ小ナル刺毛ナキ標本ニハアラサルカト云フ

八　ハカネヅミ Apodemus Speciosus, (Temm.)

其大サ家鼠ヨリ小ニシテ蹊鼠ヨリ較大ナリ尾ハ頭及胴部ノ長サヨリ短ク耳殼ハ圓形ニシテ中位ノ大サナリ尾ハ短毛粗生シ髭毛ノ長キモノ白色ナリ頭胴ノ背部ハ錆赤色ニシテ背部中央ニ黑條ヲ呈スルモノアリ腹面ハ白色ニシテ胸間ニ多少ノ淡褐色ヲ帶フ尾ノ上面ハ背部ト同シク錆赤色ニシテ下面ハ白色ヲ呈ス夏期ハ刺毛ヲ存シ冬期ハ之ヲ缺ク

乳房ハ八個ニシテ胸部ニ二對鼠蹊部ニ二對アリ

全長二一四ミメ、尾長一一〇ミメ、後足二四ミメ、耳殼一六ミメ

頭及胴一三〇ミメ、尾長缺、後足二四ミメ、耳殼一五ミメ

九　(和名不詳) Apodemus Speciosus navigator, Thom.

一般ノ特徵前種ト異ナラス毛色ハ比較的少シク暗色ヲ帶ヒ脚ハ赤灰色ニシテ白色ナラス尾ハ特ニ短シ

頭及胴一一二ミメ、尾長八七ミメ、後足二四、五ミメ耳殼一六ミメ

頭及胴一二〇ミメ、尾長八八ミメ、後足二五、耳殼一六、五ミメ

十　(和名未詳) Apodemus geisha, Thom.

體細少ニ毛ハ軟ク刺毛ヲ交ヘス背毛ノ長サ六ミメ全體ノ毛色ハ上部鮮赤褐色ニシテ頭部ハ少シク胴ヨリ鮮ナリ下面ハ白色ニテ腹側ニ於ケル境域著シ各毛ノ基部三分ノ二ハ鼠色ナリ耳殼稍々尖リテ淡褐色ニシテ白ク緣トラル腕及頸部ノ外傍ハ鳶色ニシテ趾足部ノ內側ハ白色ナリ足面ハ長形ニテ蹠面部ハ裸出ス尾毛ハ薄ク鱗ハ粗ニシテ其鱗列ハ輪狀ヲナス尾ノ上部ハ褐色ニテ下面ハ白色ナリ

乳房ハ八個ニテ胸部ニ二對鼠蹊部ニ二對アリ
體長(頭及胴)八五ミメ、尾長九五ミメ、後足一九ミメ、耳殼一四ミメ
同　九四ミメ、同　九四ミメ、同　二〇ミメ、同　一四ミメ
同　九四ミメ、同　九四ミメ、同　一八ミメ、同　一四ミメ

十一(和名未詳) Apodemus geisha celatus, Thom.
體形正種ヨリ小ニシテ尾モ亦短シ毛ハ細クシテ密ニ其長サ約六七ミメナリ
體長(頭及胴)八〇ミメ、尾長八〇ミメ、後足一九ミメ、耳殼一五ミメ
同　七七ミメ、同　八三ミメ、同　一九ミメ、同　一四ミメ
同　七八ミメ、同　七四ミメ、同　一九ミメ、同　一三ミメ

十二カヤネズミ Apodemus minutus japonicus, Thom.
體ハ細小ニテ尾ハ頭及胴ノ長サト殆ント相均シク耳殼較大ナリ毛色ハ背部黃褐ニ腹側ハ橙色ヲ呈シ腹面ノ白色ト相照應シテ境界著シ併シ毛根ハ全體ニ鼠色ナリ
體長(頭及胴)六六ミメ、尾長六五ミメ、後足一五ミメ、耳殼七ミメ

十三ハタネズミ Micromys montebelli M. Edw.
此種ハ喙鈍クシテ體肥ヘ尾甚タ短ク耳殼ハ圓形ニシテ毛粗ナリ全體鼠色ニシテ背部ハ各毛ノ尖端ニ褐色ヲ帶ヒ腹面ハ各毛ノ末端白色ヲ呈スルヲ以テ鼠色較鮮明ナリ本種ハ先年茨城縣下ニ非常ナル繁殖ヲナシ被害酷シカリシモノナリ　(詳細ハ農科大學紀要第六卷ニ佐々木博士ノ報告アリ)
乳房八個二對ハ胸部ニ二對ハ鼠蹊部ニアリ
體長(頭及胴)一〇五ミメ尾長缺、後足一七ミメ、耳殼一一ミメ

十四(和名未詳) Evotomys (Craseomys) andersoni, Thom.
本種ハ外貌北海道ニ產スル E. bedfordiae ニ近似ス併シ上種ヨリ長尾ニシテ門齒敢テ强大ナラス毛色モ亦前種ニ均シク全體ニ赤ミヲ帶ヒ背部ハ栗色ニテ腹側ニ至ルニ從ヒ漸々灰色ナリ腹面ハ灰白色ニ暗黃色ヲ增ス脚モ亦前種ヨリ短シ
乳房ノ數不明
體長(頭及胴)一二〇ミメ、尾長五四ミメ、後足一八、五ミメ、耳殼一三ミメ

十五(和名未詳) Evotomys (paulomys) Smithii, Thom.
全體ノ毛ハ軟ニシテ背毛ノ長サ約一センチ大體ノ毛色ハ淡褐色ニテ腹側ハ背部ヨリ著シク鼠色ナラス腹面ハ黃白色ナレトモ毛根鼠色ナルヲ以テ從テ背腹ノ毛色ニ著シキ境界ナシ咽喉部灰色ヲ呈ス耳殼ハ體毛ノ長サト畧同シク毛密ニシテ褐色ナリ手足ノ背暗灰色跟部ヨリ趾部マテ蹠面ニ毛多シ尾ハ軀幹ノ三分二ノ長ヲ有シ毛密生シ尖端ニ萱毛アリ尾ノ上部ハ暗褐色ニ下面ハ鮮灰色ナリ
乳房六個ニシテ胸部ニ一對鼠蹊部ニ二對アリト云フ
體長(頭及胴)七九ミメ、尾長五四ミメ、後足一七、五ミメ、耳殼一〇ミメ
同　一〇〇ミメ、同　五〇ミメ、同　一七、五ミメ、同　一一ミメ
同　一〇三ミメ、同　四九ミメ、同　一八、〇ミメ、同　一二ミメ

十六(和名未詳) Apodemus geisha Sogax, Thom.
本種ハ對州產ニシテ正種ト異ナル點ハ比較的耳殼ノ大ナルニ在リト云フ
體長(頭及胴)八一ミメ、尾長九一ミメ、後足一九、五ミメ、耳殼一五ミメ
同　七九ミメ、同　一〇〇ミメ、同　一九、五ミメ、同　一五ミメ
同　八四ミメ、同　九〇ミメ、同　一九、〇ミメ、同　一六ミメ

乙、北海道所產トシテ知ラレタル種類
Mus norvegicus, Eteol. 本種ハ七郎鼠ノ異名ナラン
十七(和名未詳) Apodemus Speciosus ainu, Thom.
本島產「ハカネズミ」ト色彩等一般ノ特徵ハ異ナル所ナシ手足長大ニシテ頭骨狹長ナリト云フ

體長(頭及胴)一一八ミメ、尾長一〇七ミメ、後足二七、五ミメ、耳殼一五ミメ

十八(和名未詳) Apodemus geisha hokkaidi, Thom.

此種ハ本島產ノ正種ニ酷似ス唯全體ノ毛色稍淡赤褐色ニシテ耳殼短シ

體長(頭及胴)九〇ミメ、尾長九五ミメ後足缺、耳殼一三ミメ

十九(和名未詳) Evotomys mikado, Thom.

背上ノ色彩ハ淡赤色ニシテ頭上ヨリ背部ニ擴リ側面ハ一層灰色ニ腹部ハ淡橙色ヲ帶ヒ體ノ前部ハ背腹ノ境界鮮明ナリ耳殼ハ鮮赤色ニ手足ノ表面ハ狐色ナリ尾ハ毛密ニシテ尖端ニ蕚毛アリ上部ハ暗褐色ニ下部ハ白ミヲ帶ブ蕚毛ハ上部黑ク下部白シ

體長(頭及胴)一〇四ミメ、尾長三四ミメ、後足一七ミメ、耳殼一一、五ミメ

二十(和名未詳) Evotomys (Craseomys) bedfordix, Thom.

背部ノ毛ハ長サ約一センチアリテ全體ニ赤ミヲ帶ヒ背部ハ栗色ヲ呈シ腹側ハ灰色ナリ腹面ハ灰白色ニシテ黃色ヲ交エ手足ノ上部ハ灰白色ニシテ趾ハ白色ナリ

體長(頭及胴)一一九ミメ、尾長四七ミメ、後足二〇ミメ、耳殼一五ミメ

丙、臺灣產鼠類ニ就テハ未タ標本ニ接セサレトモ嘗テ該島ニ英國領事タリシアル、スウインホウ氏ノ報告中ヨリ該島所產ニ係ル種類ヲ抄錄ス

二十一(和名不詳) Nesokia (Mus) bandicota, (Bechstein).

此種ハ大形ニシテ背部ノ毛剛ク尖端黑キ長毛アリ其長サ二インチ若クハ三インチアリ喙ハ尖リテ長ク足黑クシテ大ナリ耳殼ハ尋常ニテ圓ク尾ハ頭及胴ノ長サヨリ短シ背部ハ黑褐色若クハ鼠色ニ淡黃色ヲ帶ヒ腹側面ニ灰色ヲ呈シ下面ハ灰褐色ナリ

乳房十二個ニシテ三對ハ胸部ニ三對ハ鼠蹊部ニアリ

體長(頭及胴)二六九ミメ、尾長二五五ミメ、後足五一ミメ、耳殼二七ミメ

臺灣ニ於テハ打狗ヨリ臺北市ニ至ル高地ノ牆等ノ下ニ夥シク穴居シ村落ニ於テハ之ヲ見ルモ市街ニ於テハ之ヲ見ス穀類果實野菜等ヲ害スルノミナラス時ニ家鷄ヲ襲フコトアリト云フ

七郎鼠　Mus decumanus, Pall.

ハツカネズミ　Mus musculus, Linn.

二十二(和名未詳) Mus coxinga, Swinhoe.

此種ハ臺灣ノ北部ニ最モ多ク南西部ニ少シ大都市ニハ見エス大ナル家鼠ノ進入セサル內地ノ村落ニ數多ナルヲ認ムト云フ

英領印度產ノ　Mus jerdoni, Blyth. ト同種ナラント云フ

二十三(和名未詳)　Mus canna, Swinhoe.

門齒狹クシテ細ク橙色ヲ呈ス背部及四肢は褐色ニ栗色ヲ帶ヒ頭部並ニ腹側ハ一層鮮明ナリ下面ハ汚キ赭色ニテ尾ハ褐色ヲ呈シ毛ハ微細ナリ故ニ殆ント裸出ス「ムス、インチクス」ニ酷似スレトモ四肢ノ小ナルト毛ノ軟キ點異ナレリト云フ

體長(頭及胴)一三七ミメ、尾長一三一ミメ、後足三五ミメ、耳殼一五ミメ

二十四(和名未詳) Mus losea, Swinhoe.

此種ノ門齒ハ前種ヨリ廣ク色ハ同一ナリ背部ハ全體ニ褐色ニシテ頭及背部ノ毛ハ多ク尖端黑色ナルヲ以テ光線ニ因テ暗色ヲ呈スルコトアリ腹面ハ汚レタル白色ヲ帶ヒ脚ハ褐色ニシテ前足ノ兩側ハ白ク緣トラル尾ハ褐色ニシテ微細ノ刺毛アリ

體長(頭及胴)一五〇ミメ、尾長九三ミメ

支那及臺灣等ニ產スル本種ハ本島產ノ「タネズミ」ニ酷似セルモノナリト云フ

二十五印度鼠　Mus indicus, Geoffroy.

背部ハ薄栗色ノ褐色ニシテ各毛ノ多クハ其尖端黑色ヲ帶ヒ老成ノモノニ於テハ背部ニ條斑ヲ呈ス毳毛ノ長キモ

ノハ白ク短キモノハ黑色ナリ喙邊脚及下面ハ灰白色ニ黃色ヲ帶フ尾ハ上部褐色ニシテ短キ剛毛ヲ混生スト云フ

體長(頭及胴)二六八ミメ、尾長一一、耳殼一六、五ミメ

同　一七五ミメ、同　一三一ミメ

臺灣市中ニ於テハ此大形ノモノ普通ナリト云フ

二十六野鼠ノ一種 Longtailed Field mouse (?Mus badius, Hobgson.)

此野鼠ノ尾ハ頭及胴ヨリ長ク耳殼ハ毛薄ク大形ニテ圓シ全體軟毛ニシテ背部ハ栗色ニ下面ハ白色ナリ歐洲產ノ「ムス、シルバチクス」ニ似ル支那地方ニモ廣ク栖息スト云フ

以上二十六種中東京市內ニ棲息スル鼠類ハ第一第二第三ノ家鼠ニシテ郡部ニ接近スル區ニ於テハ往々第四及第六ノ種類ヲ見ルモ家鼠ニ比スレハ甚タ少數ナリトス

四十年六月以降十二月マテト四十一年一月以來六月ニ至ルマテ調製セル家鼠標本約千二百三十二頭ニ就キ之ヲ種別スルトキハ種數ノ割合左ノ如シ

年月	種類	頭
四十年七月ヨリ十二月マテ	第一七郎鼠	一七一頭
	第二クマネズミ	四五頭
	第三エジプトネズミ	二七三頭
四十一年一月ヨリ六月マテ	第一七郎鼠	二五六頭
	第二クマネズミ	五一頭
	第三エジプトネズミ	四三六頭
	計	一二三二頭

右三種ニ於ケル頭數ノ割合ヲ以テ東京市內ニ棲息スル鼠類ノ一斑ヲ推測スルハ少シク杜撰ナレトモ蓋シ正鵠ヲ失スルモノニアラサルヘシ

三種ノ鑑別

第一、七郎鼠老成ノモノハ頭及胴ノ長サ尾ヨリ長シト雖初年ノ若鼠ニ在リテハ尾ト其長サ均シキモノアリ耳殼小ニシテ一七ミメヨリ二一ミメヲ最大トス前方ニ折リ返ヘシ眼ニ達セス後足ハ割合ニ長大ニテ二八ミメヨリ四一ミメニ至ル此種ノ毛色ハ背腹色ヲ異ニシ背部ハ暗褐色ニ腹部ハ灰白色ヲ呈ス尾ノ下面モ亦灰白色ナリ背部ノ毛ニ二樣アリ一ハ下部全體ニ鼠色ニシテ尖端ニ褐色ヲ帶ビ極メテ軟毛ナリ一ハ基部白ク扁平ニシテ中央ヨリ末端マテ深黑色ノ剛毛ナリ幼鼠ニ於テハ此種ノ毛ヲ缺ク髭ハ黑色ナレトモ其色稍淡泊ナリ四足ノ表面灰白色ノ短毛ヲ生ス第二版(第一圖ABC)

測定表

標本番號		5	41	80	76	52	68	89	85	91	50
年月日		四十年十月廿日	同十月四日	同十月十二日	同十月十一日	同十月七日	同九月廿六日	同十月十五日	同十二月九日	同十二月廿日	同十二月十二日
產地		本所區	淺草區	芝區	下谷區	四谷區	淺草區	神田區	京橋區	小石川區	牛込區
雌雄		♀	♂	♂	♂	♂	♀	♀	♂	♀	♂
老幼		老	同	同	同	同	同	同	同	若	若
體長(頭及胴)		200ミメ	175ミメ	215ミメ	190ミメ	200ミメ	203ミメ	195ミメ	200ミメ	115ミメ	110ミメ
尾長		185ミメ	160ミメ	180ミメ	175ミメ	165ミメ	170ミメ	150ミメ	180ミメ	110ミメ	110ミメ
後足		35ミメ	38ミメ	36ミメ	36ミメ	37ミメ	38ミメ	36ミメ	40ミメ	28ミメ	30ミメ
耳殼		22ミメ	21ミメ	19ミメ	21ミメ	21ミメ	22ミメ	20ミメ	22ミメ	17ミメ	18ミメ
胃內容	米					甘藷	飯	豆	銀杏	米屎	豆
	血			米	餡						

第二「クマネズミ」頭及胴ノ長サ尾ヨリ概シテ短ク耳殼大ニシテ二〇ミメヨリ二五ミメニ達ス之ヲ前方ニ折リ返ヘストキハ眼ニ及フ此種ノ毛ハ背腹共概シテ同色ナレトモ背部ハ藍黑色ヲ呈シ腹部ハ淡鼠色ナリ背部ノ毛ハ前種ノ如ク二樣アリテ一ハ鼠色ニシテ尖端些ニ褐色ヲ帶ヒ一ハ長キ剛毛ニシテ基部ハ白ク扁平ヲナシ中央ヨリ尖端ニ藍黑色ヲ呈ス本種ニ於テ前種ノ如ク幼鼠ニハ之ヲ缺ク髭毛ハ其色黑ク濃厚ニ尾毛モ亦一體ニ黑色ナリ

（第二圖ABC）

測定表

標本番號		11	10	32	88	36	47	65	84	42	25
年月日		四十年十一月十八日	同十一月廿一日	同十二月二日	同十二月十日	同十月七日	同九月廿五日	同十月十四日	同十一月五日	同十月十九日	
產地		日本橋區	神田區	日本橋區	本所區	四谷區	下谷區	淺草區	芝區	四谷區	
雌雄		♂	♂	♀	♂	♀	♀	♀	♀	♀	
老幼		若	同	同	同	老	同	同	同	同	
體長（頭及胴）		100ミ	100ミ	120ミ	120ミ	120ミ	150ミ	170ミ	155ミ	180ミ	190ミ
尾長		120ミ	130ミ	155ミ	160ミ	170ミ	150ミ	165ミ	180ミ	190ミ	190ミ
後足		28ミ	28ミ	30ミ	31ミ	31ミ	31ミ	33ミ	32ミ	34ミ	37ミ
耳殼		20ミ	20ミ	22ミ	23ミ	22ミ	23ミ	24ミ	24ミ	24ミ	25ミ
胃內容		菓子	菓子豆	甘藷	同	飯米豆	甘藷	甘藷	同	甘藷豆	甘藷

第三、「エジプトネズミ」此種ハ背部ノ毛七郎鼠ニ類似シ其形態骨格ハ前種「クマネズミ」ニ酷似ス尾ハ割合ニ長ク後足ハ比較的ニ小ニシテ最大ノモノ三三ミメヲ踰ヘサル如シ毛色ハ背腹色ヲ異ニシ背部ハ褐色ニ黑色ヲ雜ヘ腹部ハ灰白色ニ淡紅色ヲ帶フ背部ノ毛ニハ二樣アリ一ハ鼠色ニシテ其末端ニ褐色ヲ呈シ一ハ細キ黑色ノ長毛ヨリ成ル而テ前二種ノ如キ剛毛ヲ缺ク四足ノ表面ハ鼠色ニシテ其兩側ハ灰白色ニ綠トラル（第二版第三圖ABC）

測定表

標本番號		24	84	79	19	39	13	10	61	14	10
年月日		四十年十二月廿日	同十二月三十日	同十二月十八日	同十二月廿五日	同十二月十日	同十二月廿四日	同十二月廿四日	四十年七月九日	四十一年六月十一日	四十一年六月三日
產地		四谷區	小石川區	日本橋區	四谷區	本郷區	同	同	麹町區	本郷區	日本橋區
雌雄		♀	♀	♀	♂	♂	♂	♂	♂	♂	♂
老幼		幼	若	同	同	老	同	同	同	同	同
體長（頭及胴）		77ミ	105ミ	110ミ	129ミ	135ミ	135ミ	145ミ	165ミ	155ミ	155ミ
尾長		115ミ	115ミ	125ミ	145ミ	165ミ	190ミ	195ミ	185ミ	210ミ	190ミ
後足		25ミ	28ミ	28ミ	30ミ	30ミ	32ミ	31ミ	33ミ	33ミ	30ミ
耳殼		19ミ	20ミ	22ミ	22ミ	20ミ	22ミ	23ミ	22ミ	24ミ	24ミ
胃內容		空胃	胡蘿蔔	脂	糠甘藷	水	甘藷	糠	肉	飯	飯

右三種ニ於ケル測定表ニハ數多ノ標本中ヨリ各十頭（幼少ノモノヨリ老成ノモノ）ヲ揭出ス各個體ノ寸尺ニ就テハ敢テ其必要ヲ認メサレトモ十頭ニ於ケル局部ノ寸尺ヲ通覽スルトキハ自ラ一定ノ大サヲ示シ居レリ故ニ三種ヲ相比較スルトキハ後足ノ大サニ於テモ耳殼ノ長サニ於テモ三種各一定ノ形態ヲ表出スルヲ以テ識別上有要

ナル所以ナリ第二版ニ於ケル第一、二、三圖ノ各種ノ前半身ノ寫影ニシテ、見耳殼ノ大小ヲ示ス各圖Aハ頭蓋及下顎ヲ側面ヨリ撮影セル者ヲ示スB圖ハ頭蓋及下顎ヲ外部ヨリC圖ハ頭蓋及下顎ヲ內部ヨリ撮影シ臼齒ノ咀嚼面ヲ示ス鼠類ノ臼齒ハ$\frac{3-3}{3-3}$ニシテ三個ノ形狀各異ナリ特ニ第三臼齒ハ往々小形ヲ成シ特性ヲ存ス臼齒ノ咀嚼面ニハ琺瑯質ノ褶跡アリ其橫褶ノ直線ナルトハ鼠ノ種屬ニ因リ相異ルヲ以テ鑑別上最モ須要ナル點ナリ

雄鼠　一四一五頭
雌鼠　一三六〇頭

雌雄ノ割合及胃ノ內容

動物ノ雌雄ノ割合ハ種屬ニ因テ一定セサルガ如シ若シ家鼠類ニシテ雌鼠少ク雄鼠多ケレハ交尾期ニ際シ鬪爭起リ易ク從テ雄鼠ニ負傷多ケレハ自然繁殖ヲ減殺スルノ理ナリ今測定セル頭數二七七五頭ニ就テ其割合ヲ見ルニ右ノ如ク家鼠ニ於ケル雌雄ノ割合ハ其差著シカラスト雖一回ノ調査ニシテ固ヨリ之ヲ確言スル能ハス

胃中ニ於ケル食物ノ種類（四十年七月ヨリ同十二月マテ）

1 米	八〇六頭	2 麥	一五頭	3 稗	二七頭	4 黍	一一頭
5 種子	三頭	6 果實	六頭	7 木實	六頭	8 飯米	一九二頭
9 桃實	一頭	10 梨實	一頭	11 玉蜀黍	一頭	12 南瓜	七頭
13 瓜	一〇頭	14 茄子	二〇頭	15 豆、豆腐殼	一三七頭	16 銀杏	二頭
17 紫蘇實	三頭	18 胡麻	二六頭	19 葱	二頭	20 胡蘿蔔	七頭
21 馬鈴薯	一〇頭	22 大根	一五頭	23 菜	五五頭	24 牛蒡	一頭
25 蕎麥	二頭	26 甘藷	二〇四頭	27 茶殼	二五頭	28 餅	二頭
29 蒟蒻	八頭	30 油揚	四頭	31 松茸	一頭	32 護謨	二頭
33 草	三五頭	34 海苔	三頭	35 昆布	二四頭	36 麻屑	二頭
37 魚肉	五一頭	38 肉	一四二頭	39 鷄卵	八頭	40 牛乳（バタ）	四頭
41 血液	一九頭	42 蝦肉	一一頭	43 蟲類	三頭	44 蚯蚓	二頭
45 蒲鉾	一頭	46 鼠兒	一頭	47 鼠毛	八頭	48 屎	一九頭
49 西洋蠟	三頭	50 菓子	三〇頭	51 餡	五頭	52 痰	一九頭
53 味噌	一二頭	54 壁土	一三頭	55 糊	六頭	56 糠	二七頭
57 脂肪	六頭	58 空胃	一五五頭				

（四十一年一月ヨリ同六月マテ）

1 米	一一六頭	2 麥	二三頭	3 飯	一三八頭	4 甘藷	一四七頭
5 豆	六八頭	6 菜	一九頭	7 胡麻	一四頭	8 糠	一六頭
9 大根	二頭	10 菓子	二二頭	11 味噌	六頭	12 昆布	二頭
13 茶殼	三頭	14 胡蘿蔔	三頭	15 蒟蒻	一頭	16 餅	一頭
17 鷄卵	二頭	18 魚肉	一五頭	19 獸肉	四頭	20 鼠毛	四頭
21 蜜柑	二頭	22 血液	八頭	23 屎	一〇頭	24 土	二四頭
25 痰	二頭	26 水	二三頭	27 牛乳	一頭	28 脂肪	一頭
29 空胃	八二頭						

以上ノ如ク鼠類ノ食物ハ諸種ノ物質ヲ食餌トナスヲ以テ饑渴ノ爲メニ死滅スルモノハ殆ント稀ナラン胃中ニ水ヲ含ムモノアルハ蓋シ飲料トシテ取リシモノナルヘシ其他屎及咯痰ヲ食スルコトノ少カラサルハ頗ル注意スヘキ點ナリトス

鼠類ノ懷胎兒數及鼠類ノ繁殖力

懷胎兒數ヲ檢セルニ二頭アルモノ七回、三頭アルモノ七回四頭アルモノ五回、五頭アルモノ六回、六頭アルモノ一四回、七頭アルモノ一〇回、八頭アルモノ二回、九頭アルモノ六回、十頭アルモノ三回、十一頭アルモノ二

回、十四頭アルモノ一回、十五頭アルモノ二回ナリ、右ノ事實ヨリ考察スルトキ鼠類ノ一回ニ分娩スル頭數ハ平均六七頭ヲ普通ナリトス鼠類ノ繁殖力ノ旺盛ナルハ敢テ述フルノ要ナシト雖其繁殖力ハ終年衰ヘサルヤ否ヤノ問題ニ就テハ右ニ記述スル所ノ事項中之ヲ證明スル材料トナルヘキモノナシ然ルニ各區内ニ於ケル警察署ヨリ日々警視廳檢査所ニ送付セラルヽ鼠類頭數報告書ニ就テ四十年七月以降四十一年六月ニ至ルマテ十三區ニ於テ日々買上ラル總頭數ト赤兒ノ總數トヲ比較對照シテ其增減ヲ見ルニ增加シ八月ニ較々減シ九、十月再ヒ倍加シ十一、十二月及一月ニ於テハ減少ノ極度ニ達シ二月ヨリ漸々增加シ六、七月ノ候再ヒ旺盛ニ達スルモノヽ如シ其增減ハ別表ニ示スガ如シ

因テ案スルニ家鼠ノ幼兒幷巢ヲ特別ニ高價ニ買上ルトキハ之ヲ專業トスルモノ生シ鼠ノ成長力ヲ減殺スルヲ以テ遂ニ減絕スルコトヲ得ヘキナリ

自然界ニ於ケル鼠ノ敵

莊子曰鼠ヲ捕フル猩狌（支那ニテ野生ノ猫ヲ云）ニ如カスト吾人ノ孫蹄等ヲ用キテ家鼠ヲ捕殺スル外ニ自然界ニ於テ鼠ヲ捕食スルモノ少カラス家鼠亦屋内ニタミ栖息スルモノニアラス或ハ溝渠中ニ潛ムコトアリ或ハ夏季ノ麥圃ニ或ハ秋季ノ稻田ニ其成熟期ニ際シ田圃ニ出テ之ヲ食餌トナスヲ以テ其當時ハ屋内ニ鼠族ノ減少スルヲ常トス故ニ屋外ニ於テ鼠類ヲ捕殺スル所ノ動物ハ吾人ノ生活上ニ害ナキ限リハ之ヲ保護繁殖セシムルコト緊要ニシテ間接ノ効ハ吾人ノ直接ノ驅除ニ勝ルコト多シトス

今本邦ニ於テ如何ナル種類ノ動物ガ鼠ヲ嗜食スルヤヲ調査スルニ哺乳類中ニ在リテハ狐、狸、犬、猫、黃鼬（チヨウ）、鼬（イタチ）鼠等ニシテ鳥類中ニ於テハ鷹鵂等ノ鷙鳥類爬蟲類中ニ於テハ蛇類ノ如キ最モ捕鼠ニ効アルモノナリ

狐狸ハ夜獸ニシテ神社佛閣ノ堂下等都市村落ニ近ク栖息シ吾人ノ殘肴鼠類家禽等ヲ食餌トナス狐ハ往々家禽ヲ竊取スルヲ以テ養鷄場ニハ害獸ノ一タリ狸ハ狐ニ比スレハ有益無害ノモノト推定ス然レトモ古來本邦ニ於テハかち〳〵山等ノ伽話アリテ狸ヲ憎ムヘキ害獸ノ如ク人口ニ膾炙スルヲ以テ村童樵夫モ目ニ觸ルレハ之ヲ撲殺セサレハ止マサルノ習俗ヲナスト一方ニハ其毛皮ハ（フサ）毬ニ用キ或ハ毛筆ノ原料トシテ將又防寒ノ具トシテ近年需用多キヲ以テ各府縣ヨリ販出セラルヽ毛皮ノ數ハ歲ト共ニ增加ス農商務省三十五年度ノ調書ニ因レハ販出頭數三萬七千二百二十四ノ多キニ至ル右ノ如ク毛皮ノ需要アルハ人ノ知ル所ナレトモ狸カ鼠類ヲ驅除スルニ間接ニ効アリト說クモ蓋シ信スルモノハアラサルヘシ信セサル而已ナラス却テ其迂ヲ嘲フ可シ尤モ狸ハ野獸ニシテ犬猫ノ如ク人ニ馴レサレハ屋内ノ家鼠ヲ驅除スルニハ適セサルヘキモ之ヲ保護シテ其繁殖ヲ計ルハ屋外ニ於ケル鼠類ヲ捕殺スル上ニ有効ニシテ兼テ毛皮トシテ有利ナルハ一舉兩得ナリト云フヘシ

黃鼬及鼬鼠ノ捕鼠ニ効アルハ勿論ニシテ彼等ノ村社敗寺等ノ屋裡ニ棲息スルモ亦此獲物アルカ爲ナラン然レトモ一利一害ハ數ノ免カレサル所ニシテ屢々家禽ヲ襲フヲ以テ或ハ其利害相均シカランモ知ルヘカラス三十五年度ニ於ケル該調書ニ因レハ黃鼬皮ハ二萬六千九百七十五枚ニシテ鼬鼠皮ハ一萬一千〇七十八枚ナリ去三十七、八年ニ於テハ獸皮ノ需用頓ニ增加セシヲ以テ右ノ二三倍ニモ上リシナラン恐ラク野兎野鼠等ノ害獸ノ繁殖上ニ大ヒナル影響アラント想像ス

鷙鳥顧中鳶（トビノスリ）鴞（フクロ）鳴（ミミヅク）角鴞等ハ常ニ小獸ヲ食餌トナスヲ以テ驅鼠ニ有効ナリトス故ニ狩獵法中ニモ此等ノ鳥類ヲ狩リニ射殺スルコトヲ禁セラルヽ所以ナリ特ニ鵂角鴞ノ如キ夜鷙鳥類ハ鼠ノ如キ夜獸ノ驅除ニハ適當ナリトス

愛禽家ハ之ヲ飼養シ足革ヲ用キ撞木ニ据ヘ夜間厨ニ置キ鼠ヲ捕食セシムルモ一興ナラン

畿ニ合衆國農務局ニ於テ刊行セラレタル鷹鵂類ニ關スル調査報告中本邦ニ產スル鷹鵂類ニ近似ノモノ一、二種ニ就テ其胃中ニ於ケル食物ノ種別表ヲ左ニ抄錄シテ參考ニ供セントス

假稱アカヲノスリ (Buteo borealis)		假稱カタアカノスリ (Buteo lineatus)		ミヽヅク (Asio wilsonianus)		フクロ (Syrnium nebulosum)	
胃數	五六二個ニ付	胃數	二二〇個ニ付	胃數	一〇七個ニ付	胃數	一〇九個ニ付
獵禽	五四羽	獵禽	三羽	獵禽	一羽	獵禽	五羽
小禽	五一羽	小禽	一二羽	小禽	一五羽	小禽	一三羽

假稱アカヨノスリ (Buteo borealis)	假稱カタアカノスリ (Buteo lineatus)	ミヽツク (Asio wilsonianus)	フクロ (Syrnium nebulosum)
小鼠　二七八匹	小鼠　一〇二匹	小鼠　四六匹	小鼠　四六匹
小獸　一三一匹	小獸　四〇匹	小獸　一八匹	小獸　一八匹
蛙　三七匹	爬蟲類　二〇匹	蛙　四匹	蛙　四匹
昆蟲　四七匹	兩棲類　三九匹	空胃　一五個	トカゲ　一匹
鰕　八匹	昆蟲　九二匹		魚　二匹
ヤスデ　一匹	蜘蛛　一六匹		昆蟲　一四匹
敗肉　一三塊	鰕　七匹		蜘蛛　二匹
空胃　八九個	蚯蚓　一匹		鰕　九匹
	敗肉　二塊		空胃　二〇個
	魚　三尾		
	空胃　一四個		

右表ノ如ク此等鷹鵂屬ノ食餌ハ種々ナレトモ鼠類小獸ヲ最モ多ク捕食スルモノト認定シテ誤リナカラン但シ鶻（ハイタカハヤブサコノハヅク）隼鵂鶻ノ如キ鷹鵂類ハ小禽ヲ多ク捕食スルヲ常トス爬蟲類中蛇類ニハ小獸小禽等ヲ嗜食スルモノト蛙類昆蟲等ヲ捕食スルモノトアリ本邦產ノ蛇類中ニテあをだいしょふ、しまへび、まむしノ如キニハ能ク野鼠ヲ胃中ニ見ル此等ノ蛇類ハ原野ニ在リテ鼠類ノ繁殖ヲ減殺スル上ニ有効ナリトス故ニ沖繩臺灣等ニ於ケル毒蛇類モ偶々人ニ危害ヲ與フレトモ害獸ヲ驅除スル點ニ於テハ効ナキニアラス（明治四十三年三月細菌學雜誌第六十號）

鼠ノ種屬（三十六年本縣調査）

鼠ハ其種類甚タ多シ而シテ之ニ關スル記事ノ和漢ニ傳ハレルモノ其年代頗ル遠クシテ其所說亦區々ナリト雖トモ最近ノ決定ハトーマス氏（Thomas 一千八百九十六年出版 Practical Zoology p.1016）ニ據レハ百〇二種ヨリ尠ナカラスト云フ同氏ノ調査ニ據レハ鼠ハ哺乳動物ノ一ニシテ其分類ヲ示セハ左ノ如シ

Rodentia
- 喫齧類
  - 栗鼠形類 Sciuromorpha
    - Gliridae 科
    - Muridae 鼠科
      - 鼠屬 Mus
    - Bothyarigidae 科
  - 獼猪形類 Hystrichomorpha
    - Apalacidae 科
  - 兎形類 Tazomorpha
    - Geomyidae 科
    - Heteromydae 科
    - Dipodidae 科
    - Pedetidae 科
  - 鼠形類 Myomorpha

鼠屬中ニ包含セラルヽモノニシテ通常稱呼セラルヽモノハ

黑鼠　褐鼠　甘鼠　野鼠

麝香鼠　南京鼠　獨樂鼠

等ニシテ家鼠、野鼠、水鼠等ヲ其大別トス

原來鼠屬ノ動物ハ其齧齒小サク其造構圖ノ如ク其齧齒ノ面ニアル溝ヤ銳利ニシテ長ク他ノ動物ニ稀ニ見ル處ナリ亦體ノ大小長短、四肢、耳、尾ノ形等モ他類ト異ナレリ而シテ乳房ノ數ハ六乃至二十二配列セリ

鼠ニ關スル晩近ノ著書中メリアム Merriam 氏ノ Fauna of North America ニ據レハ（北米合衆國ワシントン府ナル同國農務局ノ刊行ニシテ現今既ニ十七卷ニ及ヘリ）其記載スル處年々新種類ヲ發見シ而シテ野鼠ハ其種類現今二百二十種ニ及ヘリ

我縣特ニ我横濱市ニ棲息セル鼠ノ種類ハ海外交通ノ關係ニ依リ頗ル多數ニ上レルナランモ是等ノ調査ハ他日ノ

研究ニ俟タサルヘカラス

鼠族ノ性質

鼠族殊ニ家鼠ハ極メテ智慮アル動物ニシテ其感覺ノ鋭敏ナル程度ハ殆ント吾人豫想ノ外ニアリ而シテ其性最モ獰惡ニシテ同類互ニ反噬ス

Cox's Encyclopaedia of Common Thing ノ内ニ左ノ一節アリ

（前畧）彼レノ智覺ハ鋭敏ニシテ甚タ狡猾ナル動物ナリ瓶或ハ壺ニアル處ノ食物ヲ得ント欲スルトキ其口狹ク頭ヲ入ル、能ハサル時ハ尾ヲ以テ之ニ代ヘ食物ヲ引出セルコトヲ或ル孃カ實見シタル事實アリ開ハ「ジエリー」ノ壺ヲ膀胱ノ一片ヲ以テ其口ヲ密封シ寶藏ノ棚ニ置キ後日之ヲ取リ出シ見ルニ小ナル圓孔カ覆ヒ（膀胱ノ）ヲ通シテ穿タレ其内ナル「ジエリー」モ減量セルヲ以テ不思議ニ堪ヘサリシガ恰モ其穴ノ周邊ガ鼠ノ尾ヲ入ル、ノ大キサニテ加之モ其「ジエリー」ノ減量部分ガ尾ノ長サト一致シ居レハ定メテ彼レガ所爲ニシテ膀胱ヲ嚙ミ孔ヲ穿ケ之レヨリ尾ヲ下ケ少シツ、引出シタルモノナラント思考セリト

孃又云フ或時彼家ニテ鼠ヲ殺サントテ肉一片ニ燐「パステー」ヲ塗リ其徘徊スル處ニ毎日之ヲ置キタルニ食肉ハ日々運搬セラレテ消失スルニモ拘ハラス鼠ハ無數ニ生長シテ以前ト異レル狀態モ見エサリシガ孃ハ終ニ其理由ヲ發見セリソハ其後ノ事ナリ彼ガ住家ノ近傍ニ貯水器ノアルアリテ其終端ハ水絶エス奔流セルガ其下ニテ肉ノ數片ヲ見出シタルコトアリ

又其後ノ事ナリ彼ノ家ノ裏口ニテ毒ヲ塗リタル肉片ヲ運ヘル鼠ヲ見出セリ尙ホ他ニ於テハ水ノ落口ニテ肉片ヲ洗ヒ居ルヲモ見タリ

茲ニ至リ始メテ疑ハ晴レタリ鼠ハ日々毒ノ塗リタル肉片ヲ狡猾ニモ毒ノ所ヲ除去シテ日々ノ食物ト爲セルノ事實アリシヲ知リタレハナリ

家鼠カ黠狡ノ性アル東西其軌ヲ一ニス而シテ家鼠ハ亦復讐的ノ性質ヲ有シ且ツ猜疑心最モ強シ捕鼠器又ハ其他ノ手段ヲ以テ度々彼等ヲ困マラシムルトキハ終ニ吾人ノ寐否ヲ試ムル爲メ窗ノ戸ヲ尾ヲ以テ叩クコトアリ

嘗テ赤砂糖ト水ト赤粘土ヲ適宜ニ混シテ其戸ニ塗擦シテ鼠ノ若シ叩クニ於テハ其班痕ノ殘ルアランヲ試ミタルニ其夜此音アリ翌朝之ヲ見ルニ果シテ尾痕アリ因テ嚮キニ夜々戸ヲ叩クガ如キ音ハ鼠ノ其尾ヲ以テ人ノ眠否ヲ試驗シタルヲ確認シ得タリ

家鼠ハ又清潔ヲ好ムノ癖アリ殊ニ黑灰色ノモノハ最モ清潔ヲ好ミ暇アレハ絶エス自身ノ顏面及ヒ身體全部ヲ掃除スルコト猫ヨリモ甚シ且ツ食物ヲ喫シタル後チ其殘片等ノ身體ニ觸ル、アラハ尙ホ更我唾液ヲ以テ淨拭シ其狀殆ント猫ガ身體ヲ掃除スルニ彷彿タリ赤褐色ノモノハ比較的其性少ナク泥鼠ハ此點ニ於テハ最モ劣レリ

家鼠ノ智慮アル一例ハ嘗テ實檢者ガ菜種油ヲ平皿ニ納レ之ニ反對ノ方面ニ二箇所點火シ（燈心ナルモノヲ投シテ）夜間放置シテ睡眠ノ狀ヲナシ靜カニ之ヲ窺フニ彼ハ吾人ノ全ク睡眠シタルヤ否ヲ種々試驗シ容易ニ油皿ニ近カサリシガ殆ント半夜ニ於テ彼ハ此油皿ニ二匹集リ來リ尾ニテ燈心ヲ引キ込マセ終ニ一方ノ燈火ヲ消滅セシメ亦第二ノ火ヲ滅セントナシタル際吾人ハ聲ヲ發シタル爲メニ逃ケ歸レリ次日復此方法ヲ講シタレトモ來ラス尙ホ其次日モ來ラサリシ被ノ黠智ハ頗ル或ル高キ程度ノモノナリ殊ニ黑色ナル家鼠ハ比較的知慮ノ度高シ捕鼠器等アルトキハ尾ヲ以テ試ニ捕鼠器ヲ打チ安全ナリト思量スル後ニ於テ食スルコトアリ然レトモ亦人ニ慣ル、ノ性アリ日々一定ノ處ニ食物ヲ與フルコト久シキニ及ヘハ安心シテ之ヲ食スルニ至ル

又家鼠ノ智ハ鷄卵ヲ運搬スルニ一鼠之ヲ抱キ背ヲ下ニナストキハ他ノ鼠ハ其尾ヲ持シテ引キ走ルナリ又或ル場合ニ於テハ其鷄卵ヲ抱タル鼠ヲ押ス事アリト云フ

泥鼠ハ人ノ家屋ニ接息セス多クハ溝渠等ノ横穴ニ住スルモノニシテ日沒後ヨリ運動スレトモ晝間（人ノ家屋ニハ夜間）ニテモ食物ヲ求ムル爲メニハ溝渠ヲ蹣歩セリ然ルニ家鼠ハ日光アル間ハ人家ノ住居ニ靜眠シ夜間ハ全ク晝間ト其狀況ヲ殊ニシ頗フル活潑トナリ運動スルガ如シ泥鼠其色褐色其毛踈粗ニシテ光澤ナシ而シテ家鼠ヨリハ其體大ニシテ耳ハ比較的小ナリ又横ニ走ルコトハ家鼠ト同シケレトモ攀上スル事又ハ細キ線ナトヲ歩行スルコトハ家鼠ニ及ハサルヤ遠シ而カモ土ヲ掘リ又ハ下部ニ向テノ智覺及ヒ働キハ強クシテ家鼠ハ一籌ヲ輸スルナリ而レトモ其知慮ハ大ニ劣レリ

鼠ハ古來ヨリ時變ヲ能ク知ルト言ヘリ殊ニ大火災ノ如キハ前知其災ヲ避クルト猶ホ洪水ノ前ニ於テ蟻ガ普通ノ處ニ奔走セサルガ如シトイフ今ヨリ三十八九年前ニ於テ神奈川町ニ大火アリシ際其災ニ先チ鼠ハ數百群ヲ爲シ向島（即チ今ノ横濱）ニ渡レリト而シテ其時ノ漁人ノ漁獵ノ時屢々網中ニ入リタルモノ其數概ネ幾百ナリシナラント言ヘリ

鼠族ノ食物

鼠族ノ食物ハ動植兩界ニ亘リ一物ノミニ限定セラルヽコトナシカッセル氏（Cassel's Noturoly History 107p）ニ依レハ

鼠ハ植物性ノ物即チ穀物及果實ノ如キモノハ特ニ常食トスル處ニシテ野ニ捜ミ又石藏ニ在ッテ貨物ヲ食ヘリ然レトモ褐鼠ハ動物性ノ物ヲ食ス凡テノ種類ト凡テノ狀況ニ於テモ亦然リ巴里ノ近傍ナルモントフアーコンノ屠場ニ於ケル一事實アリ同屠場ニ於テ一日間殺シタル馬ノ屍ノ全部ハ三十五頭ノ數ニ昇リシガ次ノ朝ニ於テ骨ノミ存在セリ云々

又メルリアム氏 Merriom ノ甘鼠及野鼠ノ說ニ云フ

食物ハ主トシテ根莖乾及他ノ堅キ植物性物質草ノ全部及植物ノ汁液多キ部分トス農業的動物上ノ區分ニテハ高等有害物ニ編入スヘキモノナリ馬鈴薯ヲ大ニ破壞シ他ノ根塊及菓樹ノ根ヲ喫喰ス若シ其木根ニ穴ノ出來タルトキハ殆ント他ノ小ナル根ヲ切リ放ス迄其周圍ニ運搬ス若シ其木大ナラサルトキハ各根殆ント切放シ終ニ枯死セシム

又飲料ニ就テ曰ク

甘鼠ハ遙カ以前ヨリ知ラルヽ如ク飲料ヲ取ラス一般喫齒類ノ如ク其食物タル植物ヨリ必要量ノ水ヲ攝取スルモノナリ是レ甘鼠ヲ飼養スルドクトル、グーデー Dr. Goode ドクトルメルリアム Dr. Merriam 教授（ルリック Pratt, Herric バルヴキン Mr. J. B. Parruin 諸氏ノ一致スル所ナリ

又神奈川町ニ現住スル古老ハ謂フ

今ヨリ六十年前即チ予ノ十歲カ十一歲ノ頃ナリシ此神奈川ナル新町ト浦島町間ハ今ノ如ク家屋軒ヲ連ネテ市街ノ狀ヲ爲サス實ニ寂寥ノ地ナリシガ此處ニ馬捨場アリ一日老婦人ノ死屍海岸ヨリ此場ニ打チ上ガレリ然ルニ何レヨリ來リケン五六百ノ鼠此死屍ニ簇リ其肉ヲ喰ヘリ村人群集シ追ヘトモ去ラス依テ此趣ヲ代官ニ訴フ代官檢視ノ後其命ニヨリ之ヲ埋メタレトモ簇鼠ハ毫モ去ラス依テ再ヒ訴ヘタルニ官亦命シテ屍體ハ海中ニ投スヘシト是ニ於テ發掘シ之ヲ戶板ニ載セ繩ヲ以テ其上ヲ縛シ遂ニ海中ニ押流セリ然ルニ群鼠ハ其屍ヲ追ヒ尙ホ海中ニ追跡セリ其狀態ノ悽愴ナル言語ノ以テ盡スナシ今ニシテ之ヲ忍ヘハ肌尙ホ粟ヲ生ス云々

是レカッセル氏ノ三十五頭ノ馬屍ヲ一夜ニ喰盡スト云フニ一致ス而シテ鼠族ハ著シキ甘味ト甚シキ鹽味ハ好マサルモノナレトモ辛棘蕃椒ノ如キハ之ヲ食シ其嗅神經ハ能ク發達セルカ如シ

新鮮ナル魚類又ハ生肉ハ他ノ食物アル場合ニ於テハ敢テ之ヲ好マサルハ數々經驗シ得タル所ナリ

蕎麥、米、麥、豆類、及甘藷、栗實、胡蘿蔔等ノ如キモノハ彼等ノ常食トスル處ニシテ魚、鰕等モ之ヲ燒ケハ其嗜好ノ度ヲ高ムルニ至ル殊ニ油類ヲ好ムノ性ハ他ノ動物ニ特異トスル處ナリ

鼠族ノ繁殖

ウード氏博物學ニ云フ家鼠ノ繁殖力ハ頗フル强クシテ初メ其年ノ四月ニ分娩シ尙ホ其年ニ三回分娩ス每產十二乃至十四ノ數ニ至ル牝ハ能ク其孖ヲ愛養シ幼鼠自カラ食物ヲ喫喰スルニ至レハ之ヲ放任シテ自由行動ヲ爲サシム恰モ雌鷄カ雛ヲ保育スルトキ外界ニ向テ非常ノ勢力アルカ如ク幼孖保育中ハ最モ强キ勢力ヲ以テ外界ニ及ホセリ然レトモ奮怒ノ際ニ當テハ或ハ其孖ヲ食フコトアリト云フ又巢ヲ作ルハ重ニ牝ニシテ牡鼠ハ遠近ヨリ巢ノ材料ヲ運搬セリ尙ホ食物等ヲモ運搬ス

牝鼠ハ能ク寒暑ニ際シ巢ニ堪忍シテ孖ヲ保育シ牡鼠ハ（ハッカネズミ）鼹鼠 M. Muscutus ハ交尾後二十二日乃至二十四日ニシテ分娩ス子數每回四頭乃至八頭ニシテ一年五六回出產ス故ニ一頭ノ牝ハ一年間少クモ約三十頭ニ增殖スルナルヘシ某氏牡牝ヲ飼養シ置キタルニ五月十七日ニ六頭六月六日ニ同ク六頭七月三日ニ八頭ノ子鼠ヲ產出シタリ右牝牡（親）ヲ七月三日ヨリ別居セシメ同月二十八

日ニ至リ更ニ同居セシメタルニ八月二十一日ニ六頭十月一日ニ六兒同月二十四日ニ五兒ヲ產シ冬期間ハ出產ナク翌年三月十七日二兒ヲ擧ケタリ又前年六月六日ニ出產シタル一牝ハ此年七月十八日初メテ四兒ヲ產ミタリトノ事實ハフロレ氏博物書ニ見ユ

茶色鼠（七郎鼠）M.decumanus 鼠ハ一ヶ年間兩三回出產スルモノニシテ交尾後約一ヶ月ニシテ五兒乃至二十一兒ヲ產ミ出生後約ソ百日ニシテ母トナルコトアリト云フ

家鼠 M.Rattus. 亦前者ト同樣ナラント

（東京帝國理科大學動物學教授飯島博士談話）

又大阪府廳ヨリ第三高等學校ヘ鼠族ノ繁殖ニ就テ調査ヲ依囑シタル其答書ニ據レハ

一、交尾後二十一日ニシテ分娩ス

二、生後十日ニシテ眠ヲ開キ百日ニシテ交尾ス

三、一回毎ニ家鼠ハ十疋內外蓄鼠ハ五六疋田鼠ハ最モ少ク二三疋ヲ分娩ス

四、分娩後七日ヲ經レハ忽チ春情ヲ發シテ交尾シ時期ヲ嫌ハス分娩度數ハ不定ナレトモ三四回多キハ十二回ニ及フヘキコトアリ

五、前記ノ外ハ差異ヲ見ス

六、生後一ヶ年ヲ經タルモノハ老鼠ニシテ交尾期遲ク產兒漸次減數シテ二年ニ至レハ僅カニ一二疋ヲ分娩ス一ヶ年以上ノモノハ蕃殖ニ不適當ナリ二ヶ年後ニ至レハ多ク老衰シテ斃ル

家鼠及田鼠ノ生存期ハ三ヶ年以內トス云々

鼠族ノ中小鼠 Mus minutus ハ一年ノ間數回產レ五乃至八或ハ九疋ヲ一度ニ產ム

（Cassells Natural History）

「ラット」ハ甚タ速ニ繁殖シ一年ニ三倍乃至五倍トナルハ通例ナリ其生產スルヤ一度ニ十疋ヨリ十五疋ニ至ル若シ之ヲ亡滅スルモノナクハ彼等ハ一國ヲ覆フニ至ルヘシ然シナガラ彼等ハ人、犬、鼬及猫ニ依リテ迫害セラレ且ツ互ニ嚙殺シツヽ同血族ノ若キモノ或ハ弱キモノヲ喰フ

Cox's Encyclopaedia of Common Thing

（二）除鼠法

鼠族ヲ驅除スル方法尠ナカラスト雖モ實際ニ使用シ得ラルヽモノハ左ノ五種トス

（A）猫ヲ使用ス
（B）病菌ヲ感染セシム
（C）捕鼠器ヲ用ユ
（D）藥品ヲ用ユ
（E）有害瓦斯ヲ以テ薰殺ス

（A）猫ヲ以テスル除鼠

猫ヲ以テ鼠族ヲ驅除スルハ最モ有効ニシテ大ニ之ヲ奬勵スヘキモノナレトモ猫モ亦「ペスト」ニ感染スルコトアルヲ以テ横濱市ノ如キ病毒ノ全市ニ散漫シタル市街ニ於テハ其流行時ニ之ヲ使用スルハ一考ヲ要スヘキ點ナキニアラサルヘシ而レトモ之ヲ統計ニ徵スルニ一昨年（明治三十五年ヲ云フ）以來買收シタル鼠族ノ總數ハ四拾一萬〇四百三十頭ニシテ其內有菌鼠ハ百五十三頭ニ過キス即チ無菌鼠二千六百八十一頭ニ對シテ有菌鼠一頭ノ比例ナルヲ以テ設令ヒ猫ガ「ペスト」感受性ヲ有スルモ之ニ依テ起ルヘキ危險ノ度ハ實ニ僅少ニシテ猫ノ奏スル所ノ驅鼠ノ効ハ其危害ヲ償フテ餘アルヘシ若シ夫レ未タ「ペスト」病毒ノ汚染セサル地區ニ於テハ各戸之ヲ飼養シテ鼠族ノ驅除ヲ行フトキハ「ペスト」豫防上ノ効果蓋シ尠少ニアラサルヘシ唯猫ニシテ鼠ヲ捕ヘサルモノアリ是レ恐クハ先天的無能ナルモノト後天的ニ馴致シタルモノナルヘキモ驅鼠ノ目的上ニハ之ニ注意セサルヘカラス

猫ト鼠ニ就テハ古來ヨリ種々ナル書載アリ五雜組ニ曰ク

猫ノ良者ハ端坐默然而鼠自屏息識ニ其氣ニ也俗ニ言フ別レ猫者ハ一ハ辟ク二ハ積ム三ハ咬ム四ハ食フ今併ニ其食ニ者不レ可レ得矣長溪ノ大金出ニ良猫ニ余常購レ之其價視レ宅方ニ十倍黑質金睛非レ不ニ虎然大ニ也而不レ能レ捕ニ一鼠ニ至ニ其前ニ而不レ能レ捉也此何異ニ雎陽咋レ狐犬ニ書レ之以發ニ一笑ニ

夫レ斯ノ如ク猫ニシテ鼠ヲ捕ヘサルモノアリ又同書ニ云フ

天順間西域有ニ貢レ猫者ニ盛以ニ金籠ニ頃ヲ館ニ驛中ニ一縉紳過レ之曰猫有ニ何好ニ而子貢レ之曰是不レ難レ知也能歛ニ數金ニ與レ我乎如レ數與レ之使者結ニ壇於城中ノ高處ニ置ニ猫其中ニ翌日視レ之鼠以レ萬計皆伏ニ死壇下ニ曰此猫一作レ威則十里ノ內鼠盡死ス蓋猫王也

右ノ文少シク虛勢ニ走レリト雖モ猫ノ鼠ニ對スル如斯即チ猫ヲ飼ヘハ鼠自然ニ退去スルモノナラン然リ而シテ同書ニ

京師ノ內寺責叔蓄レ猫螢白肥大逾ニ數十斤ニ而不レ捕レ鼠但親レ之耳蓄レ狗則取ニ金絲毛而短足者ニ皤跚ニ地下ニ蓋兄トシ事ニ猫ニ矣而不レ吠レ盜此亦物之反レ常爲レ妖者也

大倉ノ中有ニ巨鼠ニ爲レ害歲久主計者欲レ除レ之募ニ數猫ニ往皆反ヲ爲レ所レ噬ム一日從ニ民家ニ購得ニ巨猫ニ大如レ狸縱レ之入レム遂聞ニ咆哮聲ニ三日夜始息開視則猫鼠俱ニ死而鼠大ニ於猫ニ有レ半焉余謂猫鼠相持之際再遣ニ二ニ往援メ當レ收ニ全勝之功ニ而坐視ニ其困也主計者不レ知レ兵矣

猫ヲ用ユル驅鼠方法中ニ附記スヘキ事アリ「マンゴース」ヲ用ユルコト是レナリ乃チ一千八百七十一年ノ Annual report of Science and Industry P, 185 ニ鼠ノ驅除ニ付記載セルモノ左ノ如シ

我讀者ハ佛領西印度ニ於ケル出來事ニ就テ記憶セルナランソハ此島ニ於ケル無數ノ有毒蛇ヲ驅除スル目的ニ主トシテマンゴース Mangoose（猫ニ同シキ動物ニテ灰色ニシテ斑紋アリ蛇毒ニ抗抵シ人ニ慣レ易ク小ナル哺乳動物ヲ能ク喰フ處ノモノナリ）ヲ導キ而シテ通常ノ狐ヲ野ニ放チテ之ヲ驅殺シタルコトヲ、此頃亦之ニ類似ノ企圖ハラッカチーフ島 Lacedive Islands ニ行ハレタリ此島ハ珊瑚島ニシテ北緯十二度東經二度ニ位スル處ニシテ是等ノ部位ニハ鼠族ノ繁殖最モ著シ原來鼠ハ本島ノ產ニアラス唯其初メ海岸ニ繫留シタル或船舶ヨリ陸ニ逃レ出テタルモノ終ニ繁殖シテ驚クヘキ多數トナリ

尙現ニ增殖シツヽアリ而シテ最モ恐ルヘキ「ペスト」ヲ惹起スルニ至リシガ爲メ此策ニ及ヘルナリ數年以前迄ハ島ノ一部分ニハ（信天翁）ノ卵ノ三千乃至四千ハ常ニ散在セシガ僅々タル內ニ採去セラレ今ハ全ク根絕ノ有樣トナリ且ツ此等ハ四足動物ニ依テ終ニ驅逐セラレタルニ因レリ本島ニ犬ヲ輸入スルコトハ土人ノ宗教的感念ヨリ許シ難キ事情アルガ爲ニ試驗的ニ「マンゴース」ノ五十疋ヲ輸入シテ島ノ一部ニ放テリ而シテ亦他ノ一部面ニ印度蛇ノ五十疋ヲ移入セリ是レ同一ナル土地ニハ互ニ相容レサルノ嫌惡性アルカ爲ニ土地ヲ別別ニナシタリ而シテ此兩者ガ鼠族ヲ滅亡セシムルハ遠カラサル比較的無害ナリ而シテ彼等ハ食物充分ナレハ決シテ飢餓スルヘキヲ信ス印度蛇ハ蛇トシテ其種類中ニテハ加之モ其數若シ減スルコトアルモ容易ニ繁殖スルモノナレハスルコトナシ「マンゴース」ハ亦著明ノ動物ニシテ初メテ斃ルヽモノニシテ彼ハ又人ノ眼及管理ニ屬スヘキ處ニレハ頗ル便利ナリトス且勞役ノ必要終ルトキニ於テ上記ノ如ク本縣ニテハ既ニ明治三十五、六年ニ於テ鼠族驅除ノ爲メ猫ヲ使用スルノ有効ナルニ着目シ之レニ就キ調査ヲナシ之レヲ主張シタリシモ大阪其他ニテ猫「ペスト」ノ實驗アリテ此主張ノ實行ヲ危險視スルモノアリ爲メニ汎ク之レガ勵行ヲ迫ルニ至ラサリシガ其後四十一年ニ至リテコッホ博士來朝シ本邦ノ「ペスト」豫防上猫ヲ飼養シテ鼠族ヲ驅除スルノ可ナルコトヲ推奬セラレ又英國軍醫ハ印度ノ「ペスト」流行ノ實驗ニヨリ飼猫ノ「ペスト」豫防ニ有効ナルヲ說キ超ヘテ四十二年一月衞生局長ヨリ「ペスト」豫防ノ爲メ飼猫ヲ奬勵スヘキノ通牒アリ同年五月知事ハ告諭ヲ發シ一般ニ之レヲ奬勵スルニ至リ茲ニ始メテ數年來ノ主張ヲ實驗スルノ機ニ遇ヘリ依テ市長ハ告諭ニ基キテ之レガ奬勵方法ヲ講シ市內各衞生組合ヘ通牒シテ飼猫ノ調査ヲナサシメ之レガ奬勵ノ方法トシテ猫兒ヲ產出シタルトキハ其一頭ニ付五十錢宛ノ飼育料ヲ支給スルコト及飼猫家屋ニ對シテハ淸潔法施行ノ際其程度ヲ簡易ニシ之レガ檢查ノ際天井羽目板ヲ剝離シテ鼠族ノ捕獲又ハ其巢ノ搜索ヲナサヽルコトヽシ爾來市民ハ多少其必要ヲ感シタルモノアリシト雖モ未タ充分普及ノ目的ヲ達シ難キモノアリ茲ニ於テ縣當局ハ一名ノ監吏ヲ專任トシテ之レニ當ラシメ每日衞生組合ニ就キ飼猫ノ必要ヲ說キ之レヲ奬勵シ踵テ之レガ實行ヲ監督セシメタリ

最初ノ飼猫數調査ニ際シ或ハ畜猫稅ヲ課セラレンカト誤解シテ之レヲ隱蔽スルモノアリテ種々ノ謬說ヲ流布セシモ漸次說示ヲ領知シ飼猫數ノ增加ヲ來タシ進ンテ猫兒ヲ愛育スルニ至レリ殊ニ米穀商、古俵、古麻嚢、襤褸商等ノ特種業體者ニハ大ニ之レヲ奬勵シタルニ彼等モ又之レヲ悟リ愈々益々之レヲ飼育スルニ至レリ試ニ奬勵前後ノ飼猫數ヲ擧クレハ

四十一年九月	七千七百八十四頭
四十二年	一萬三千三百〇一頭

ニシテ實ニ五千五百餘頭ノ增加ヲ見ル明治四十二年九月横濱市ニテ行ヒタル清潔法ノ總戸數ハ六萬二千四百十戸ニシテ其内猫ヲ飼養スルモノ九千八百二十二戸乃チ六十三戸ニ對シテ一戸ノ飼猫ヲ見之レヲ平均スレハ四十七戸ニ對シテ飼猫數一頭ノ割合トナル次ニ明治四十二年六月ヨリ十二月迄ニ市内各衛生組合ニ於テ產出シタル猫兒ハ三千七百八十一頭ニシテ市役所ヨリ交付シタル奬勵金額ハ實ニ千八百九十圓五十錢ノ多額ニ上レルモ之ガ爲メニ除鼠費ヲ減少シ得タルモノ頗ル多カラン

上記ノ如キ飼猫增加ノ比例ハ之ヲ今後ニ繼續シ得ルヤ否ヤハ素ヨリ不明ナルモ假リニ此比例ヲ豫期シ得ルモノトセハ現在數ヲ基礎トシタル其增加數ハ一ヶ年七千五百餘頭ニ上ルヲ以テ若シ之レカ奬勵ヲ怠ラスシテ漸次繁殖セシメ一面又猫種ノ改良ヲ計ラハ多年ナラスシテ到ル所猫聲ヲ聞カサルナキニ至リ大ニ鼠族ノ減少ヲ來タシ終ニ「ペスト」豫防上ノ目的ヲ透達スルコトヲ庶幾シ得ンカ

然レトモ之ガ終局ノ成績如何ハ實驗ノ日尙淺キヲ以テ未タ遽カニ明言シ難キモ左表ノ如ク明治四十二年ノ後半ニ至リテ横濱市ノ買收鼠ノ著シク減少シタルハ事實ニシテ之ヲ前後四ヶ年ノ最少數ナリシ年ニ比シテモ尙平均一日三百餘頭ヲ減シタリ尤モ同年八月ヨリ十二月マテ五ヶ月間市内全般ニ殺鼠劑六十萬九千四百四十三個ヲ配置シタルヲ以テ此減少ヲ見テ直チニ飼猫ノ効力ニノミ歸スルハ早計ニ失スルヲ免レサルヲ以テ是非ノ判斷ハ之ヲ後日ニ徵セント欲ス

「ペスト」豫防ノ爲メ飼猫ヲ奬勵スルノ理由方法等ハ私立衛生會雜誌ニテ北里博士宮島博士等ノ所說ニ盡サレアルヲ以テ茲ニ採錄シテ本稿ヲ結フ

横濱市買收鼠數

月別＼年度	三十九年	四十年	四十一年	四十二年
一月	一七、九三四	二三、〇〇五	一九、七〇三	一八、四五九
二月	二〇、八七八	三一、五四二	二二、五四九	二一、三七〇
三月	二八、〇一三	三四、六九一	二八、三一一	三〇、一三七
四月	二八、二六二	三二、四一八	三三、五七四	二九、三二三
五月	三九、〇二九	三九、八五〇	四四、五〇八	三七、四七九
六月	四六、〇三〇	五八、八四六	四五、〇四〇	三一、二〇一
七月	三六、七〇七	五二、二〇二	四五、〇五四	二五、九七九
八月	三七、九八五	四一、九二五	三七、三六七	三〇、四三七
九月	四四、六三四	五三、六五三	五七、八五四	二五、六五五
十月	五一、三七六	五六、〇一九	四八、八五八	二〇、三六五
十一月	三五、五六九	三七、三九一	四〇、〇二一	一六、八九五
十二月	二四、八五五	二五、二一八	二四、八四四	一一、二〇三
合計	四一一、二七二	四八五、七六〇	四四七、六八三	二九八、五〇三
一ヶ月平均	三四、二七二	四〇、四八〇	三七、三〇六	二四、八七五

「ペスト」病豫防ニ關スルコッホ氏ノ意見ニ就テ醫學博士北里柴三郎氏ノ講話左ノ如シ

「ペスト」ハ我國ニ取リ數萬ノ國帑ト多大ノ勞力トヲ費消セシメタルノミナラス、又交通ヲ阻害シ貿易ノ發展

ヲ妨クル等、間接ノ損害ハ擧ケテ數フルニ遑アラス、而シテ病源ノ發見以來、傳染徑路等ノ研究ハ益々精緻ヲ極メ、之ニヨリテ吾人ハ「ペスト」病ノ豫防上、除鼠的消毒法ノ極メテ緊要ナル事ヲ知悉セリ、而シテ以上ノ方法ハ夙ニ實行セラレ、毎年驅除セシ鼠ノ總數ハ數十萬乃至百萬ヲ算ス、然レトモ今日ニ至リ尙著シク鼠族ノ減退ヲ認メス、從テ驅除スレハ從テ繁殖シ、殆ント其良策ヲ知ルニ苦シム、然ルニ一方ニ病毒ハ日ニ深ク二三ノ地方ニ浸淫シ、他方ニハ新ニ病毒ノ頻リニ輸入セラル、アリ、此ノ如クシテ「ペスト」病ヲ絶對的ニ防壓スルハ、殆ント不可能ノ業ニ似タリ、蓋シ其基ク原理ハ佳ナルモ、防疫ノ如キ消極的事業ハ其性質上常ニ多大ノ費用ト勞力トヲ要シ、且ツ久シキニ渉ルヲ以テ、一般民衆ノ倦怠ヲ來シ、惹テ除鼠的消毒ガ正確ニ實行セラレサルニ因ル、故ヲ以テ費ト勞トヲ少ナクシテ、實行ノ容易ナル適當ノ方法ヲ知ルハ目下ノ急務ナリトス、然レトモ未タ吾人ハ現下ノ要求ヲ充スヘキ良法ヲ知ラス、頃者細菌學ノ泰斗「ローベルト、コッホ」氏觀光ノ爲メ來遊セラル、ルニ會シ、具ニ本邦ニ於ケル「ペスト」病流行ノ狀ヲ述ヘテ教ヲ乞ヒ、幸ニ其意見ヲ聽クヲ得タリ、是レ我邦「ペスト」ノ豫防撲滅上ニ、極メテ緊要ナル事項ナレハ、左ニ其梗概ヲ陳ベン

「ペスト」病ハ主トシテ鼠族ニヨリテ蔓延セラル、モノナリ、サレハ之ニ對スル豫防施設モ亦大ニ趣ヲ異ニセサルヘカラス日本ニ於テ夙ニ鼠族驅除ヲ勵行セルハ正ニ其當ヲ得タルモノナリ、然レトモ鼠族ノ如キ繁殖力ノ大ナル動物ノ撲滅上ニ、人爲的方法、例之機械若クハ藥品等ヲ用ユルガ如キハ、勞ト費ト多クシテ其効果ハ比較的尠ナシ

蓋シ自然界ニ於ケル生物相互ノ關係ヤ極メテ複雜微妙ナルモノナレハ此點ニ留意シテ自然的方法ヲ案出セサル可ラズ、是レ人力ニハ限リアリ自然力ノ無限ナルニ及サルコト遠ケレハナリ、今生物相互ノ關係ヲ利用シ、能ク其効ヲ奏セル二三ノ例ヲ擧ケテ鼠族驅除法ヲ講スル參考ニ資セン、曾テ一好事家アリ美花ヲ賞センカ爲メニ布哇島ニ「ランターナ」ト稱スル馬鞭草科ノ植物ヲ南米ヨリ輸入セシコトアリシガ其種子ハ小禽ノ爲メニ諸方ニ散布セラレ、忽チ全島ニ繁殖シテ有害雜草トナリ、農業上ニ大害ヲ與フルニ至レリ、然ルニ本草ノ母國タル「メキシコ」ニアリテ、敢テ慘害ヲ逞フセス、精細ナル研究ノ末「メキシコ」ニハ「ランターナ」ノ種子ニ產卵スル「アグロミザ」ト稱スル一種ノ小蠅アリテ、本草ノ繁殖ヲ妨クルヲ發見シ、直ニ該蠅ヲ布哇ニ輸入シ、繁殖セシメシニ全島ニ蔓延セル「ランターナ」ハ數年ヲ出スシテ減退シ、今ヤ慘害ヲ逞セサルニ至レリ、更ニ顯著ナル例ハ、布哇島ニ於ケル甘蔗ノ害蟲タル一種ノ浮塵子ナリ、該蟲ハ甘蔗ノ莖及葉ニ寄生シ、汁液ヲ吮ヒ大害ヲ釀シ、現ニ一九〇一年ヨリ、一九〇四年ニ至ル四ヶ年ノ損害高、實ニ數百萬弗ノ巨額ニ達セリ、故ニ甘蔗協會ハ特ニ調査所ヲ設ケ、害蟲驅除法攻究ノ爲メニ、專門家ヲ世界ニ派遣シ、該蟲ノ敵ヲ搜索セシメタリ、然ルニ濠洲ニ於テ浮塵子ノ卵塊ニ寄生セル「アフアノメルスアジルルス」ト稱スル一種ノ蟻ヲ發見シ、一九〇四年此益蟲ヲ布哇ニ輸入シ增殖セシメタリ、而シテ其結果近年ニ至リテ甘蔗ノ大害蟲タル「ベルキンヂェルラ」ハ著シク減ジ、最早昔日ノ如ク損害ナキニ至レリ、以上ノ二例ノ如キハ如何ニ自然界ニ於ケル生物相互ノ關係ノ研究ガ人生ニ有益ナルカヲ證明スルモノナリ、日本ニ於テモ果樹栽培ノ盛ナルニ從ヒ、苹果樹（西洋林檎）ヲ米國ヨリ輸入シ、其栽培ニ力メシモ、害蟲タル綿蟲ヲモ同時ニ輸入シタルガ爲メニ、東北地方ニテハ今ヤ殆ント健全ナル苹果樹ナク、栽培業大ニ衰退セシト聽ケリ、是亦自然界ノ關係ヲ能ク知悉セサルニ因ル、鼠族驅除法モ亦此理ニ外ナラス、宜シク鼠ノ自然的害敵ヲ求メ之ヲ利用スヘキナリ、予ハ夙ニ鼠ノ害敵ニ就テ調査シ、或ハ埃及ニ產スル「イクノイモン」印度ニ產スル「マングスト」乃至ハ歐土ニ普通ノ「フレッチユ」「イタチ」ノ類等種々ノ肉食獸ヲ用ヒ試驗セリ、然ルニ此等ノ小獸ハ鼠族ヲ食スルト共ニ、他ノ家禽ヲ襲ヒ害ト益ト相半ハシ、到底實用ニ適セス、然ルニ猫ハ古來人ノ尤モ能ク知リ、然モ普通ナル鼠ノ敵ニシテ之ヲ馴用スレハ吾人ニ害ヲ來サス是最モ適當ナルモノナリ、而シテ此ノ如キハ何人モ知ル所ナレトモ、未タ「ペスト」豫防上ニ活用シタルモノナシ徒ラニ之ヲ遠キニ求ムルハ其効ヲ奏スル所以ニアラス極メテ卑近ニシテ且ツ平凡ノ中ニ最モ有用ナル者アリ、蓋シ猫使用ノ如キハ其一タルヘシ、然レトモ猫ヲ「ペスト」病豫防ノ爲メ鼠驅除ニ使用スルニ當リテハ、又其方法ヲ考ヘ之ヲ秩序的ニ實行セサルヘカラス今其大綱ヲ示サン

第一每戸必ス猫ヲ飼養スヘキ制度ヲ設ケ時々警察官ヲシテ臨檢セシムルコト

第二懸賞法ヲ設ケテ捕鼠ニ巧ナル猫ノ種類ヲ求ムルコト

第三世界各地ニ捕鼠ニ巧ナル猫ノ種類ヲ搜索シ之ヲ輸入繁殖セシムルコト

第四猫飼養及種類ノ改良奬勵ノ爲メ猫市又ハ其他ノ方法ヲ講スルコト恰モ牛馬ニ於ケルガ如クスヘキコト

第五「ペスト」病流行地間ノ航行船舶ニハ必ス噸數ニ應シ定數ノ猫ヲ飼養セシムルコト

第六家屋建築令中ニ一定ノ制限ヲ設ケ必ス鼠ノ接息スル屋根裏等ニ猫ノ出入口ヲ開カシムルコト

第七「ペスト」病流行地及「ペスト」病進入ノ危險アル土地ニ於テハ特ニ猫隊ヲ設ケテ鼠族驅除ヲナサシメ一定時日ノ間隔離シ「ペスト」病ニ罹ルモノ、有無ヲ檢スルコト

以上ハ單ニ猫利用ノ大體ヲ擧ケシニ過キス、而シテ猫使用ハ尤モ行ハレ易キ方法ニシテ、決シテ之ガ爲メニ巨額ノ費用ヲ要セス、然モ其効力一時的ニアラサレハ以テ鼠族驅除ノ目的ヲ達シ得ヘシ、更ニ「ペスト」流行時ニ於ケル鼠族ノ檢査ヲ行フノ煩ヲ省キ、鼠ヲ喰タル猫ヲ一定期間隔離觀察セハ、病毒散蔓ノ惧ナクシテ、同時ニ病毒蔓延ノ度ヲ知リ得ルノ便アリ、蓋シ百千ノ人爲的豫防法ハ一ノ自然的除鼠法ニ及ハサルナリ、「ペスト」病ノ豫防撲滅上除鼠ヲ以テ第一トシ、鼠族ヲ撲滅スル猫ヲ利用スルヨリ有効ナルハナシ、殊ニ大阪、神戸ノ如キ「ペスト」病毒ノ常ニ潛伏スル處ニハ、卒先シテ猫飼養ヲ奬勵シ以テ鼠族ノ撲滅ヲ期スルコト目下ノ最大務リトス（私立衞生會雜誌三百四號）

猫ノ飼育ニ就テ醫學博士宮島幹之助氏ノ講話左ノ如シ

「ペスト」豫防法トシテノ猫飼育論ハ既ニ人々ノ認メテ居ル處テアルガ未タ誤解シテ居ル者モ多ク何故猫ヲ飼ハ「ペスト」ガ豫防サレルカト云フコトヲ充分呑ミ込ンテ居ラヌ人モ少クナイ。

轉ハヌ前ノ杖「コッホ」博士ガ猫ヲ飼ヘト云ッタノハ猫サヘ飼ヘハ「ペスト」ガ全滅サレルト云ッタノテモナク「ペスト」ノ流行ッテ來タ時猫ヲ使ヘハ其傳染ヲ防クコトガ出來ルト云ッタノデモナイ、唯平生猫ヲ飼ッテ「ペスト」ノ媒介者タル　ヲ失クシテ置ケハ傳染ノ危險ガ殆ントナイト云ッタノテ猫飼育ハ即チ轉ハヌ前ノ杖テアル。元來日本ノ家ハ鼠ノ接息スルニ最モ適シテ居ルカラ鼠ヲ驅除セントスレハ家ノ建方ヲ改良スルノモ一ッノ方法テアルガ之ハ到底一朝一夕ニ出來ルコトテモナク先ッ當分ノ間不可能ノコト、見ナケレハナラヌカラ此方而カラ考ヘテモ鼠ヲ驅除スル爲メニ猫ヲ使フコトハ唯一ノ方法テアル。

猫ノ本能　猫ト云フモノハ鼠ヲ捕ル可キ動物テアルカラ其本能トシテ之ヲ喰ハナクテモ捕ル、又鼠ハ最モ猫ヲ恐レテ居ルカラ若シ猫ガ之ヲ捕ラナイトシテモ鼠ハ自然猫ノ居ル家ニハ居ナクナル、又猫ハ躾ケ方ニ依ッテマスマス鼠ヲ捕ルヨウニ改良スルコトガ出來ルノテ此訓練サヘ出來レハ猫ハ喰フノガ目的テナクテ幾干テモ鼠ヲ捕ルノテアル、中ニハ私ノ家ニハ猫ガ居ルケレトチットモ鼠ガ失クナラナイト云フ人ガアルケレト之ハ猫ノ本能ヲ失ッタ猫ヲ飼ッテ置クカラテアル、人間ノ中ニモ人ノ人タル道ヲ盡サナイ者ノアル如ク猫モ美食ニ馴ラシテ放埒ニ育テレハ鼠ヲ捕ラナクナルノハ當然テアル。

猫ハ感染シナイ　處テ茲ニ研究シテ置カネハナラヌ問題ハ猫ト「ペスト」ノ關係テ猫ノ鼠ヲ捕ルノハ好イガ「ペスト」ノ流行シテ居ル時ニ「ペスト」菌ノアル鼠ヲ喰ッタ猫ハ危險ガ何ウカソレヲ知ラネハナラヌ之ハ最モ多クノ人ノ頭ヲ惱マシテ居ル問題テアルガ種々ノ實見ニ依レハ猫ノ「ペスト」感染力ハ極メテ微弱テ或學者ノ如キハ絕對ニ感染シナイト迄云ッテ居ル、假リニ猫ガ感染シタトシテモ「ペスト」ハ「チフス」ヤ結核ノ如ク直ニ人ニ感染スルモノテハナイカラ猫ヲ消毒シテモ之ヲ防クコトハ容易ニ出來ル、殊ニ最近ノ研究ニ依ッテ「ペスト」感染ノ徑路ハ極メテ明カニナッタカラ之ヲ豫防スルニハ少クモ心配スルコトガナイ。萬一鼠ト同シ危險ガアルトシテモ五疋ナリ十疋ナリノ鼠ヲ捕レハ猫ハ其危險ヲ五分ノ一乃至十分ノ一ヲ減シタル譯テアル、加フルニ猫ハ常ニ人ノ目ニ見ユル處ニ居テ簡單ニ處理スルコトガ出來ルニ至ッテハ其危險ハ殆ント比較スルニモ足ラヌノテアル。

「ペスト」傳染ノ徑路　印度ニ於ケル最近ノ研究ニ依レハ先日モ一寸云ッタ如ク從來「ペスト」傳染ノ徑路トシテ認メラレテ居タモノハ殆ント否定サレテ普通ノ場合ニハ每モ蚤ガ最モ有力ナル媒介者テアルコトガ分ッタ、而シテ鼠ニ付ク蚤ト猫ニ付ク蚤ト、人ニ付ク蚤トハ何レモ種類ガ違ッテ居ルカラ各々其分ヲ守ッテ鼠ノ蚤ガ猫ヤ人ニ付イタリ猫ノ蚤カ人ニ付イタリスルヨウナコトハ餘リナイノテハアルガ然シ自分ノ寄生スヘキ動物ガ居ナクナレハ時トシテ他ノ動物ニモ付ク、斯ル場合ニ鼠ノ「ペスト」菌ガ蚤ニ依テ人ニ傳ヘラレルノテ、殊

ニ鼠ガ「ペスト」菌デ斃レル頃ハ病毒カ全身ニ瀰蔓シテ居ルカラ之ニ付イテ居ル蚤モ亦遺憾ナク其病毒ヲ吸收シ鼠ノ斃レルト同時ニ其體ヲ離レル、ソシテ他ノ鼠ニ移ツテ愈々鼠ノ間ニ病毒ヲ蔓延セシムルガ若シ適當ナ處置ガナケレハ人間ニ移ツテ來テ其「ペスト」菌ヲ傳ヘル、此時ガ最モ危險デアル。

猫ハ益々必要　斯ノ如ク「ペスト」傳染ノ徑路ガ分レハイヨ〳〵猫ヲ使ツテ危險ノ程度ニ達シナイ前ニ鼠ヲ驅除スル必要ガ分ルノデアル、然シナカラ猫サヘ飼ヘハ從來ノ豫防法ヤ消毒法ハ全然捨テ終ツテモ構ハヌト云フノデハナイ、矢張從來ノ豫防法モ消毒法モ繼續スルコトガ必要タケレトモ然シ之レノミニ依テ豫防シ消毒セントスレハ非常ニ多額ノ費用ヲ要シ少カラサル勞力ヲ要スルノミナラス其割合ニ効果ガ舉ガラナイ、ケレト「コッホ」博士ノ云フガ如ク平生盛ンニ猫ヲ使用シテ鼠ヲ驅除シテ置ケハ先ツ媒介者ガナイカラ傳染ノ危險ガナイ、ソシテ猫ヲ飼フ費用ノ如キハ極メテ僅少テ足ルノデアル、要ハ經濟問題、比較問題デ更ニ突飛ナ理論デモナケレハ奇拔ナ議論デモナイ。

今ノ猫ハ鼠ヲ逐フノミ　横濱ノ或ル倉庫デハ猫ヲ飼ツテ置イタニモ拘ラス其處カラ「ペスト」菌ノアル鼠ヲ出シタト云フ事ガアルケレトモ之ハ場所ノ廣サト猫ノ數トノ權衡ガ取レナカツタ爲メデ斯クノ如キ例外ノ場合ヲ持ツテ來テ猫飼育論ヲ否定スルコトハ出來ヌ先日ノ調査ニヨレハ現在東京ニ飼ツテアル猫ハ十軒ニ一疋位ノ割合テアルカラ全然居ナイニハ優ルガ「ペスト」豫防トシテハ殆ント役ニ立タヌ、何トナレハ猫ノ居ル家ニハ鼠ガ居ナクナルカモ知レナイガ他ノ九軒ニハ何ノ關係モナイノミナラス若シ全部ノ家ニ猫ガ居ナイナラハ鼠ハ猫ノ居ル家カラ猫ノ居ナイ家ヘ逃ケル丈テ何時迄經テモ鼠ノ減少スル時ハナイ、タカラ各戸毎ニ猫ヲ飼ツテ鼠ノ全滅ニ力ヲ盡サナケレハ眞ニ「ペスト」豫防ノ効ヲ奏スルコトハ不可能デアルト」。

猫ノ性質　予ハ本邦ニ於ケル猫ノミノコトヲ談スルノデアルガ、其性質ハ頗ル陰險デアツテ、温和ナル如クニ見セテ居ルガ、決シテソウテ無イ、隨分小兒ヲ威嚇スル樣ナコトモスル、犬ノ如キ主人ヲ大切ニスルト云フコトハ毫モ無イ、昔カラ妖ヲナスト謂フコトモ傳ヘラレテ居ル、有ツタコトカ無イコトカ知ラヌガ、黑田トカ鍋島トカハ猫カラ驅動カ始マツタト云フコトデアル。

猫ノ良否　本綱ニ依ルト、上鬙多ク稜者爲レ良トアリ、耳經レ捕レ鼠後則有レ缺如レ鋸如ニ虎食レ人而鋸耳ートアル、要スルニ捕鼠ノ多少功拙ヲ以テ猫ノ良否ヲ決ムルノデアラウ、併シ、猫ガ鼠ヲ捕フルニモ時期カアル樣デアル、雌猫ハ雄猫ヨリモ、多ク鼠ヲ捕フルコトハ誰人モ知ル所デアルガ隨ニ月上下ニ嚙レ鼠トノ記事モアレハ、研究セヲハナラヌ

食物ノ鑑別　猫ノ天性病鼠ヲ識別スルデアロウトハ、既ニ英醫「ゼームス、カントル」氏ガ印度ニ於ケル「ペスト」流行調査報告中ニ記載シテ居ルガ、本綱ニモマタ能盡レ地トレ食ト記サレテアル、故ニ予ハ漫リニ病鼠ナトハ喰マイト思フ。

飼猫　野猫ノ奬勵　予ハ「ペスト」ニ對シテハ絶對ニ飼猫ヲ唱道スルノ彌次馬デアル、尙是ヨリ進ンテ野猫ヲモ繁殖セシムルガ宜シイト謂タイノデアル、既ニ野鼠アルガ野生デアリシナレハ不服モアルマイト思フ（私立衞生會雜誌三百〇五號）

(B)　細菌ヲ以テ除鼠スル法

鼠族ヲ驅逐スル爲メニ一千八百九十三年露國ノ醫學者メレンシユエスキー氏ハ捍狀野鼠窒扶斯菌ヲ以テ野鼠ニ接種シ其病毒ヲ傳播セシメテ之ヲ滅亡セシムルノ方法ヲ執レリ該病菌ハ野鼠及南京鼠以外ノ動物ニハ感染セサルモノナレハ人類及其他ノ動物ニ危害ヲ與フルコトナシ故ニ一方ヨリ見レハ最モ便利ナルガ如シト雖トモ惜ムラクハ家鼠ニ傳播セサルガ故ニ「ペスト」豫防ノ目的ニ對シテハ其利用ノ効果極メテ薄弱ナリ明治四十二年本縣細菌室ニテ「ダニース」菌ヲ以テ家鼠ニ試ミシモ良好ナル成蹟ヲ得サリキ其他乾燥狀態ニ於テ保貯シタル「アゾア」等世ニ知ラル

(C)　捕鼠器ヲ用ユル法

鼠ヲ捕フルニ罠ヲ用ヒタルヤ既ニ久シ古來汎用セラレタル「桝落」ナルモノハ極メテ簡單ナレトモ能ク其功ヲ奏シ先年臺灣ニ於テ用ヒタル茶碗伏之ニ類ス又田舍ニ於テハ竹ヲ以テ「撥シキ」アルモノヲ作リ之ヲ用ヒテ捕殺セリ現今ニテモ野鼠ヲ捕フルニ用ヒラル

又壺若クハ瓶ニ水ヲ容ル、コト過半ニシテ之ニ鼠族ヲシテ昇リ得セシムル樣木片ヲ立テ掛ケ或ハ地平面以下ニ之ヲ埋メ之ニ米糠若クハ蕎麥殼ヲ散布シ水ノ見ヘサル樣ナシ置ケハ此中ニ鼠族ハ食物ヲ得ントシテ飛ヒ込ミ終ニ逃ゲ上ル能ハスシテ溺死スルニ至ル

歐洲ニテモ之ニ類シタルモノアリテ瓶ニ代ユルニ硝子壜ヲ以テセリ又北米合衆國ノ農家若クハ園藝家ハ好餌ヲ結付ケタル糸ヲ水平ニ張リ之ヲ左右ノ棒ニ卷キツケ其上ニ斜メニ厚板ヲ置ク鼠若シ其餌ニ觸レテ僅ニ動ケハ忽チ木板ハ糸ノ緩ミ解ケテ其下ニ來リシ鼠族ヲ壓殺スト云フ

其他釣天井ト稱スルモノアリ鼠ノ體量ニ依リ踏板ノ傾斜シ鼠ヲシテ其下ニアル水中ニ墜落溺死セシム而シテ此裝置ニ種々巧妙ナルモノ、案出セラル、ヲ見ル

又近時金網製捕鼠器ニ種々ノ變形アリ其著シキモノヲ複式捕鼠器ドス是ハ大倉庫又ハ船舶ニ奬用スヘキモノニシテ其一個ヲ放置シテ數頭ノ生鼠ヲ捕獲シ得ルコト稀ナラス

又簡單ニシテ其價低廉ナルガ爲メ汎用セラル、俗ニ「パチン」ト稱スルモノ、有効ナルハ皆人ノ知ル所ナリ米國ニテハ舊來之ニ酷似シタル針金製ノモノ、奬用セラル、アリ

其他枚擧ニ遑アラサルモ其効果ハ大同小異ナルモノ、如シ

(D) 藥品ヲ用ユル法

藥品ヲ用ヒテ鼠族ヲ毒殺スル方法ハ古代ヨリ行ハル、處ニシテ特ニ防疫上驅鼠ヲ强制的ニ勵行シ其目的ヲ達スルニハ現今缺ク可カラサルモノナリトス

歐米ニテハ鼠族ヲ毒殺スルニ多ク燐製劑ヲ用ユ然レトモ砒石モ亦一般ニ實用セラル、ガ如シ我國ノ家鼠ハ燐製劑ヲ嗜好セサルガ如キ感アリ是レ嘗テ實驗セル如ク「バタ」「チース」製殺鼠劑ノ如キモノハ郡部子安村ノ鼠族之ヲ好食セサリシニ元外人居留地ノ鼠族ガ喜ンテ食シタルガ如ク自然ノ慣習ニ歸スルモノナルヘキ乎「ストリキニーネ」製劑ハ危險ナルヲ以テ汎用セラル、ニ至ラス又鼠ノ便秘性ニ基キ燒石膏若ハ硫酸鐵ノ如キモノヲ用ユル驅鼠劑アリ然レトモ廉價ニシテ最モ有功ナルハ亞砒酸劑ナルヘシ又近時石原學士ハ「スルホナール」ヲ推奬セラル唯タ殺鼠劑トシテ最モ必要ナルハ鼠ノ嗜好スヘキ賦形劑ノ發見ニアルノミ

(E) 薫殺物

毒物ヲ喫食セシメ鼠族ヲ殺害スルノ外有毒ナル瓦斯ヲ吸入セシメ之ヲ薫殺スル方法アリ

鼠ハ蕃椒末薫燒氣中ニ堪ヘ難シトノ說アルモ之ヲ試ミタルニ其然ラサルヲ知レリ又硫黃ヲ燃燒シテ亞硫酸瓦斯ヲ發生セシメ之ヲ以テ毒殺スルハ有効ナル驅鼠法ナリ唯亞硫酸瓦斯ハ衣服其他器具ヲ損傷スルコトアルガ故ニ應用シ得サル場合アルヲ遺憾トス

嘗テ炭酸瓦斯ヲ用ヒテ鼠族ヲ驅除セント試ミタル人アリシガ今ヤ終ニ一酸化炭素瓦斯ヲ用ヒテ船舶又ハ倉庫ノ除鼠ヲ行フニ至レリ

(三) 殺鼠劑

毒物ヲ用ヰテ鼠族ヲ驅除スルコトハ東西兩洋共ニ最モ遠キ年代ヨリ行ハレタルガ如シ

重訂本草啓蒙中礬石ノ條ニ曰ク

初メ石ヲ燒クトキ上ニ濕薦ヲ覆フ火盛ンナルニ及ヒ其薦燒ケテ黑灰トナルコレヲ「ヌバイ」ト云フ其灰中ニ此塊アリ色赤クシテ其臭氣アリ冷ユルトキハ變シテ數色トナル之ヲ鼠コロシ又蠅コロシトモ云フ

是ニ由テ見レハ鼠及蠅取藥トシテ礬石即チ亞砒酸ハ經驗上使用セラレ終ニ其異名トナルニ至リシモノナルヘシ

西洋ニ於テモ鼠ト亞砒酸ハ遠クヨリ其關係アリシモノニシテ字書ニ

Rat paison., Apreparation of Arsenic

「鼠ノ毒物」ナル文字ハ砒石ノ製劑ト記載セラル、ヲ見ル

又

Rat bone, poison for rat, arsenious acid

「鼠ノ敗滅物」ナル文字ハ鼠ノ毒物即チ亞砒酸トセラル如鼠斯ト亞砒酸トハ關聯シテ一ノ熟語サヘ行ハレツ、

アリタリ

Compt Rendus XII. 191 ニ甘鼠ヲ滅スルニ左方ヲ用ヒタルコトヲ記セリ

甘汞	壹分	小麥粉	五分
砂糖	一分	郡青	一厘

之ヲ細粉シテ壺ノ中ニ置ク

メルリアム氏(Merriam)著American Fauna Coasper pocket ニ曰ク

イヨウワ州ノカルテル、オークノアルレン、カチン氏(Allen Catin)ハ燐ヲ用ヒテ甘鼠ヲ退治セリ其方法ハ燐ノ棒ヲ五瓦倫入ノ鐵函ニ入レ少量ノ冷水ヲ加ヘ次ニ温水ヲ注キ全ク沸騰セサル程度ニテ鐵罐ノ半ハヲ滿シ棒ヲ以テ攪拌シ燐ヲ熔シ砂糖ノ二磅ヲ溶解シ小麥粉ヲ加ヘ「ロヂウム」油ノ十五滴乃至二十滴ヲ加ヘ冷處ニ貯ヘ用ユルニ臨ミ其少量ヲ取ル

Brannt's the techno-chemical receipt Book 1895 ニ左ノ二方アリ

(一)　鼠及甘鼠ヲ撲滅スル燐錠

燐ノ八匁ヲ溫水ノ一瓦倫中ニ溶カシ而シテ穀粉ノ十磅ヲ加ヘ然ル後ニ攪拌シ而シテ牛酪ノ十磅ト砂糖ノ五磅ヲ加フ

(二)　野鼠及甘鼠ヲ撲滅スル法

燒石灰粉末失鳩苔「パリスパステル」「ヘルレボリー」根末及茴香油各同量ヲ取リ之ヲ混合シ丸劑トナシ而シテ甘鼠及野鼠ノ出ル處ニ配置ス

ブリス Brith 氏ノ毒物書ニ曰ク

鼠ヲ斃ス爲メニ販賣スル亞砒酸錠ハ次ノ成分ナリ

亞砒酸	五、〇%	燈煙	〇、六%
小麥粉	四六、三%	脂肪	四六、三%
茴香油	小量	炭酸重土	四六、八%
		茴香油	〇、二%

又

白砒石	四六、八%		
ロースピンク(ブラザル木及梨木ヲ以明礬及炭酸鉛ヲ着色ス)	五、八%		
ロヂイユム油	〇、二%		

種々ナル亞砒酸製劑ハ蠅ヲ殺スニモ用ヒラル褐色ナル Papiel Mouse 主成分ハ亞砒酸ナリ暗灰粉狀ノ蠅粉 fly-powder ハ亞砒酸鑛ヲ空氣中ニ曝露シタルモノナリ蠅水 fy-water ハ砂糖、糖蜜或ハ蜂蜜ヲ以テ甘味ヲ附シ强度不定ノ亞砒酸ノ强溶液ナリ

本邦ニ於テモ明治初年マテハ殺鼠劑ヲ行商シタルモノニシテ藥商ニ於テモ亦殺鼠劑ヲ販賣セリ之レ等ノ殺鼠劑ノ實質タルヤ俗ニ石見銀山ト稱シタル砒石ニシテ其賦形劑ニハ澱粉類又ハ蒸米等ヲ用ヒ餅形又ハ軟膏類ノ如ク調製セリ然ルニ其後此鼠取藥ヲ以テ往々謀殺ヲ企テタルモノアリシ爲メ政府ハ終ニ之カ調製發賣ヲ嚴禁スルニ至レリ歐洲ニ於テモ往昔ヨリ鼠族ヲ滅亡セシムルニ砒石ノ殺鼠藥ヲ用ヒタル事前記載ノ如シ然レトモ「ペスト」ノ撲滅及豫防ノ手段トシテ廣ク之ヲ應用スルニ至リシハ最近二十餘年前歐亞殖民地ニ於ケル「ペスト」發生ノ際ニアルカ如シ

我國ニ於テ行政廳ガ公然殺鼠劑ヲ製シテ之ヲ人家ニ配付シ其鼠族ノ驅除ヲ計畫シタルハ明治三十二年大阪及神戸ニ「ペスト」發生シタル當時ニ始マル而シテ本縣ニ於テハ三十五年十月初旬本病發生ノ際始メテ之ヲ用ユルニ至リシカ同年末ニ至リ「ペスト」患者一時終熄シタル爲メ之ヲ中止シ翌三十六年五月更ニ之ヲ使用セリ而シテ最初即チ三十五年十月初旬本病發生ノ當時ニ於テハ先ツ三種ノ殺鼠劑ヲ製シタリ其當時本劑ノ製造ニ當リ誤食ヲ避クル爲メ可成菓子ニ類似セサル樣調製スルヲ以テ一要件トナシタルヲ以テ或ハ着色シ或ハ種々ノ形狀ヲ與ヘタルモ下流民ニ需用セラル、菓子ハ其着色形狀共ニ多種多樣ニシテ如何ニ考慮スルモ上下貴賤ヲ通シテ食

物ニ類似セサル形狀色彩ヲ與フルコトハ不可能ノ事ニ屬スルモノト認メタルガ故ニ遂ニ中途ニシテ膏藥入曲物及貝ヲ用ヒ之ニ「ぞく」字ヲ朱印スルコトヽナセシモ後更ニ經費ト運搬ノ便ヲ計リテ久シク木片ヲ用ユルニ至レリ然ルニ茲ニ注目ヲ要スヘキハ殺鼠劑ノ効果ト其過誤ヲ防止スル爲メ與ヘタル安全ノ形狀トハ常ニ逆比例ヲナスノ一事是レナリ依テ近時更ニ其形狀ヲ復舊セリ是レ從來ノ經驗上其過誤ノ極メテ稀有ナルヲ知リ得タレハナリ今最初使用セシ方劑ヲ左ニ揭ク

第一種　ストリキニーネ製劑

一　硝酸ストリキニーネ　一、〇
一　蕎麥粉　五〇、〇
一　炮炒米糠（用キサルコトアリ）　五、〇
一　炮炒蕃椒　一一、五

右蜂蜜適宜ヲ以テ丸劑稠度トナシ一個三、〇トス遮斷區域內空戸ニ限リ之ヲ用ユ

第二種　燐製劑

一　燐　一一五、〇
一　豚脂　四〇、〇

右燐ヲ能ク豚脂ト密和シ貝ニ入レ「ぞく」字ヲ朱印ス又倉庫用トシテ食パンノ切片ニ塗布セリ

第三種　亞砒酸製劑

一　亞砒酸　二、五
一　燒甘藷　各適宜
一　炮炒蕃椒末
一　メチールビヲレット（加入セサルコトアリ）
一　蜂蜜

右軟膏狀トナシ一個四瓦ニ分チ可成菓子ニ類セサル各種ノ形狀トナス又香味料トシテ乾川魚、蒸乾小海老、米糠ノ炮炒シタルモノ五、〇ヲ加入シタルコトアリ燒魚、蒸乾海老ノ加入ハ鼠ノ嗜好ニ投スルモノヽ如シ又「チース」製ノモノヲ造リタルモ價稍々高キニ失シ多數ノ配布ニ適セサルヲ以テ中止シタリ

其配置ハ市役所之ヲ擔任シ日々市吏員ヲシテ必要ト認ムル民家及倉庫ニ配置セシメ翌日之ヲ引上ケ其成績ヲ報告スルコトヽナシタリ而シテ此等ノ殺鼠劑ハ人畜ニ對シテモ亦有毒ナルガ故ニ之ヲ普ク配付スルニ當リテハ頗ル危險ノ感アリシヲ以テ特ニ殺鼠劑取扱規程ヲ設ケ各署長分署長ヲシテ嚴ニ之ヲ監督セシメタリ又砒石解毒劑ヲ調製シ之ヲ巡査駐在所、派出所、衞生組合事務所、其他ノ要所ニ配付シテ應急手當ノ用ニ供セリ

其解毒劑ハ日本藥局方規定ノモノニシテ

一　煆製苦土　一五、〇
ヲ廣口壜ニ入ル
一　過硫酸鐵　一〇〇、〇
ヲ細口壜ニ入ル

右使用ノ際ハ各瓶ニ水凡ソ五勺ヲ入レ廣口瓶內ニテ混和振盪シテ用ユルコトヽシ其用法及用量ノ大意ヲ各壜ニ記載セリ

右殺鼠劑配置ハ十二月上旬ニ至リテ止メ更ニ明治三十六年五月十四日戸部署管內ニ「ペスト」患者ノ發生ヲ見ルニ至リシ際再ヒ之ヲ配置スルニ決シ前殺鼠劑第三種ヲ調製セリ次テ六月ニ至リ殺鼠劑容器ヲ木板ニ改メタリ即チ其凹所ニ軟膏狀ノ殺鼠劑凡ソ三「グラム」塡充シテ板ノ平面ト同樣ニナシタルモノナリ而シテ其配置ハ監吏之ニ當リ一戸平均三個ヲ每夕刻適當ト認ムル場所ニ配置シ翌早朝之ヲ引キ上ケ其咬喰シタルヤ否ヲ調査セシメ更ニ同夕刻ニ至リ新鮮ナルモノヲ交換配置シテ每戸三日間ツヽ繼續スルヲ通例トス而シテ引キ上ケタルモノハ市役所ニ於テ其塗布シタルモノヲ盡ク除去シ熱湯ニテ洗滌乾燥シ之ヲ調劑係ヘ回送セリ三十六年十月下旬ニ至リ殺鼠劑ノ變更ヲ企畫シ炮炒胡麻ヲ加フルコトヽナシタリ又遮斷區域ハ其區域內ノ住民ヲ他ヘ隔離シタル後